

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	伊藤 怜	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>文章の精読・和訳を通して基礎的な文法事項を習得し、読解力を養う。英語運用にはリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4技能が必要となるが、その全ての基礎となるのが文法であり、文法の理解なしにはいずれの技能の獲得も難しい。</p> <p>様々な分野の文章を読むことで、広範な英語使用の例に触れながら、基礎的なリーディング能力を獲得し、今後どのような英文に対しても一定の理解ができるという状態になることを目指す。</p>					
到達目標	<p>① 語彙を増強し、基礎的な文法事項を身につけることができる。</p> <p>② 構造が複雑な文でも正確に理解し、和訳することができる。</p> <p>③ 比較的長い英語の文章を読むことに慣れ、その内容を正確に理解することができる。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	授業説明		16	前期期末試験の解説・後期授業の説明		
2	基礎の確認1 (品詞、自動詞と他動詞、句と節)		17	Unit 3 (第1 & 2段落)		
3	基礎の確認2 (文型、受動態、後置修飾)		18	Unit 3 (第3 & 4段落)		
4	基礎の確認3 (関係詞と関係節)		19	Unit 3 (第5 & 6段落)		
5	基礎の確認4 (準動詞: 分詞・不定詞・動名詞)		20	Unit 3 のまとめ		
6	基礎の確認のまとめ		21	Unit 4 (第1 & 2段落)		
7	Unit 1 (第1 & 2段落)		22	Unit 4 (第3 & 4段落)		
8	Unit 1 (第3 & 4段落)		23	Unit 4 (第5 & 6段落)		
9	Unit 1 (第5 & 6段落)		24	Unit 4 のまとめ		
10	Unit 1 のまとめ		25	Unit 5 (第1 & 2段落)		
11	Unit 2 (第1 & 2段落)		26	Unit 5 (第3 & 4段落)		
12	Unit 2 (第3 & 4段落)		27	Unit 5 (第5 & 6段落)		
13	Unit 2 (第5 & 6段落)		28	Unit 5 のまとめ		
14	Unit 2 のまとめ		29	後期まとめ		
15	前期まとめ		30	一年間のまとめ		
予習内容 復習内容	<p>予習: 授業までに課題を完成させて持参・提示する。</p> <p>復習: 授業で用いた資料を基に単語・文法・和訳等の確認をし、自分で説明できるようにしておく。</p>					
教科書	Reading Fusion 1 (Andrew E. Bennett 著、南雲堂) また、必要に応じて補助資料を配布する。					
成績評価	試験 65% + 課題 25% + 平常点 (出席状況や学習態度等) 10% 出席状況や授業態度は各成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料にもする。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席が5回」を超えた場合、評価の対象外とする。</li> <li>受講生の理解度によっては上記授業計画の一部を変更することもある。</li> </ul>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I	村井 美代子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>食育や AI 医療、地域包括ケアやアルツハイマー型認知症など、健康や医療にまつわる話題を各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業で読了予定。</p> <p>1ユニット 250～300語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を正確に把握できる力を養う。合わせて簡単な会話文のリスニングを通して、会話内容の概要を聞き取れる力も養う。各ユニットにはリーディング課題の内容理解を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでに身に付けた英語力を維持し、向上させることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①英文の内容を正確に把握する力をつける。</p> <p>②語彙や文法に関する基礎的な知識を確実に身に付ける。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）		16	前期試験返却・Unit 8：規則正しい生活様式		
2	Unit 1：健康とは何か		17	Unit 8：ルーティンの重要性を学ぶ		
3	Unit 1：健康の4つの側面を理解する		18	Unit 9：ペットが我々に与えてくれるもの		
4	Unit 2：チョコレートに健康促進効果はあるのか		19	Unit 9：ペットとの生活がもたらす変化		
5	Unit 2：ポリフェノール含有食物と効果を学ぶ		20	Unit 10：地域包括ケアについて考える		
6	Unit 3：スマホの利用時間について考える		21	Unit 10：地域包括ケア政策を理解する		
7	Unit 3：スマホの利用時間を減らす方法を考える		22	Unit 11：専門性を超える		
8	Unit 4：AIは心を癒せるのか		23	Unit 11：専門性を超えた働き方		
9	Unit 4：AIの潜在的影響について理解する		24	Unit 12：温泉の健康的利益		
10	Unit 5：日本の学校給食と子供たちの健康		25	Unit 12：温泉の効能を説明する英語表現を学ぶ		
11	Unit 5：日本の食育と学校給食について考える		26	Unit 13：睡眠負債の防ぎ方		
12	Unit 6：非表示糖分について考える		27	Unit 13：睡眠時の脳の働きと睡眠負債の理解		
13	Unit 6：糖分摂取量の抑制		28	Unit 14：アルツハイマー病とケント体		
14	Unit 7：歯周病は疾患の引き金になるのか		29	Unit 14：アルツハイマー病の原因と症状と予防		
15	Unit 7：歯周病と死に至る病との関係		30	Unit 15：ワクチン接種とインフルエンザ		
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。</p> <p>提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『明日を生きるころとからだ』（朝日出版）					
成績評価	<p>試験（前期と後期に実施）70% + 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30%</p> <p>前期と後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語 I	花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。					
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようになることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス・声調	16	前期の復習			
2	単母音と複母音	17	年齢の言い方とたずね方・量詞			
3	子音・鼻韻母	18	数をたずねる疑問詞			
4	軽声・声調の変化	19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方			
5	アール化・人称代名詞	20	中国の通貨・値段のたずね方			
6	「是」述語文①	21	年月日と曜日・時刻の表現			
7	「是」述語文②・名前の言い方答え方	22	助動詞「想」・連動文			
8	動詞述語文	23	存在文			
9	疑問詞疑問文	24	前置詞①・反復疑問文			
10	副詞「也」・省略疑問文	25	完了形			
11	指示詞・助詞「的」	26	文末につける「了」・前置詞②			
12	副詞「都」・語気助詞	27	助動詞②・助動詞③			
13	数字・所有を表す「有」・程度副詞	28	二重目的語をとる動詞			
14	形容詞述語文	29	進行形・動詞『～が好きだ』			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）					
成績評価	出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の期末試験 50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I	今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。</p> <p>教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。</p>					
到達目標	<p>①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を音読できる。</p> <p>②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を理解し、自分でも作ることができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、アルファベット	16	前期の復習			
2	アルファベットと単語の読み方	17	第 4 課 定冠詞の仲間			
3	単語の読み方（挨拶、数字など）	18	第 4 課 練習問題			
4	第 1 課 文の作り方（動詞について）	19	第 4 課 不定冠詞の仲間			
5	第 1 課 重要な動詞、語順の原則	20	第 4 課 練習問題、会話文			
6	第 1 課 練習問題、会話文	21	第 5 課 名詞の複数形			
7	第 2 課 名詞について（名詞の性別）	22	第 5 課 人称代名詞			
8	第 2 課 名詞の「格」について	23	第 5 課 練習問題、会話文			
9	第 2 課 重要な動詞	24	復習と中間テスト			
10	第 2 課 練習問題、会話文	25	第 6 課 前置詞の使い方			
11	復習と中間テスト	26	第 6 課 練習問題、会話文			
12	第 3 課 不規則動詞	27	第 7 課 形容詞の使い方			
13	第 3 課 不規則動詞の練習問題、命令形	28	第 7 課 練習問題、会話文			
14	第 3 課 練習問題、会話文	29	後期の復習			
15	前期の復習	30	前期・後期の復習			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。</p> <p>復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。</p>					
教科書	<p>①『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社</p> <p>②独和辞典（4 月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※ 5 月以降は必ず①②両方持参すること</p>					
成績評価	<p>前期試験と後期試験の点数に基づいて成績評価を行う。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも 10 回以上講義に出席しないと評価対象外となる（遅刻・早退は 0.5 回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけでなく、自分でやってみなくては身につけません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語 I	井出 勉	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語の発音にまず慣れてもらうよう十分に練習します。フランス語は思ったより日本語の中に取り入れられていることがわかり身近に感じられるはずですが。実際のコミュニケーションにも対応できる会話文を通して、フランスの文化も紹介します。 また、旅行でも役に立つ日常会話を習得することで、特に仏検 5 級の聞き取り問題にも対応できるようになってもらうことを目的とする。					
到達目標	①仏検 5 級合格レベルの初級文法や、簡単な日常的コミュニケーションを取れるようになること。 ②フランス語を学ぶことを通して、アメリカ文化とは違った、ヨーロッパの異文化を分析・解釈できるようになること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	授業の進め方、フランスの紹介・発音	16	数字（特に 1～20）と年齢			
2	綴り字の読み方・出合ったときの挨拶	17	部分冠詞			
3	発音練習・別れの挨拶	18	飲み物：カフェでの注文・精算の仕方			
4	自己紹介の仕方	19	食べ物：レストランでの注文・精算の仕方 * 仏検 5 級受講希望者がいる場合：仏検対策①			
5	名詞の性と数・不定冠詞	20	～に行く・～から来た 仏検対策②			
6	形容詞の性と数	21	所有形容詞・人称代名詞強勢形			
7	特殊な変化の形容詞・定冠詞	22	比較級			
8	基本動詞の活用	23	命令形			
9	3通りの疑問文の作り方	24	曜日と日付の表記の仕方			
10	指示代名詞・～が好き（大好き）	25	天候・時刻			
11	否定文	26	近接未来・近接過去			
12	動詞～を持つとその慣用表現	27	過去分詞の作り方			
13	疑問形容詞	28	複合過去（助動詞 avoir）			
14	動詞～をするとその慣用表現	29	複合過去（助動詞 être）			
15	前期の総括	30	後期の総括			
予習内容 復習内容	予習：配布した講義資料に基づき、教科書付属の CD を聞いたりしておくこと。 復習：前回の講義ノートなどに目を通し、疑問点などを明らかにしておくこと。 CD も繰り返し聞き、自宅でも発音練習を各自でやっておくこと。					
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社					
成績評価	平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、試験（中間・期末）70% 年間 10 回を超える欠席をした場合、評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	辞書・参考文献については、第 1 回の講義や講義中に随時紹介する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話	マイルズ・オブライエン	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	このコースでは、さまざまな場面での日常英語を練習し、すでに知っている英語をより有用なものにできるようにすることを目的としています。前期は、観光や留学で海外に行くときや、外国人旅行者に日本のことを説明するときに必要な英語を学びます。後半では、英語圏での日常生活について学びます。教科書は使用せず、リスニングを含むオンライン教材（学外でも PC、タブレット、スマートフォンで使用可能）を両学期とも基本的に使用します。					
到達目標	このコースでは、言語学習の概念・機能的アプローチに基づいたオンライン教材を使用して、実際のさまざまな状況でコミュニケーションのために英語を使用する能力を高めることを目的とする。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	Introduction. Practice with computer system	16	Introductions. Wh- questions & answers			
2	Flight, immigration, customs	17	Daily routines - How often?			
3	Money, taxi, bus, hotel	18	Can / Can't			
4	Restaurants and eating out	19	Rules, Instructions (do / don't)			
5	Meeting people	20	Future planning - will / going to			
6	Simple medical problems	21	Telling about yourself			
7	Talking about Japan 1	22	Talking about the past			
8	Talking about Japan 2	23	Changes			
9	College life	24	Asking about others			
10	Money, shopping, security	25	Many uses of -ING verbs			
11	Asking for and giving directions	26	Likes and dislikes			
12	Sightseeing, the Grand Canyon	27	Negative and tag questions			
13	Home stay	28	Preferences - Which? What?			
14	Getting help – pharmacy, having something stolen	29	Shopping and prices, understanding money amounts			
15	Review of the course so far	30	Overall course review			
予習内容 復習内容	予習は、毎週次回のトピックについて考えて、関係のありそう単語や表現を少し調べておく。復習は、オンライン教材で自由に学外でも練習がいつでもできる。					
教科書	教科書は使用せず、オンライン教材を使う					
成績評価	オンライン教材の使用結果記録 50%、筆記試験 50% 通年 11 回以上欠席をした場合、試験の受験資格はない。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読	村井 美代子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>科学技術や教育、文化、環境問題など現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>1ユニット400～500語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①400～500語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。</p> <p>②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）		16	前期試験返却 Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害		
2	Unit 1：pandemic の語源をたどる		17	Unit 8：オンラインコミュニケーションの弊害		
3	Unit 1：pandemic の語源をたどる		18	Unit 9：持続可能な都市づくりのために		
4	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		19	Unit 9：持続可能な都市づくりのために		
5	Unit 2：「熱さまシート」の開発経緯		20	Unit 10：ブルーカーボンとは？		
6	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		21	Unit 10：ブルーカーボンとは？		
7	Unit 3：NASA とスヌーピーとのつながり		22	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響		
8	Unit 4：指紋認識精度を高める		23	Unit 11：ChatGPT の教育に対する影響		
9	Unit 4：指紋認識精度を高める		24	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション		
10	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		25	Unit 12：鉄腕アトムと NASA の DART ミッション		
11	Unit 5：「リケジョ」の先駆者たち		26	Unit 13：色の認識について		
12	Unit 6：ルービックキューブの歴史		27	Unit 13：色の認識について		
13	Unit 6：ルービックキューブの歴史		28	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性		
14	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		29	Unit 14：結論に飛びつく私たちの認知の特性		
15	Unit 7：世界で最も美しい駅の1つ：金沢駅		30	Unit 15：情報のオーバーロードへの対策		
予習内容 復習内容	<p>テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。</p> <p>提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。</p>					
教科書	『リーディングプロスペクト 英文読解の総合演習』（三修社）					
成績評価	<p>試験（前期と後期に実施）70% + 平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30%</p> <p>前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
実用英語	伊藤 怜	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	TOEIC 受験を意識しつつ、TOEIC 形式の（あるいは、それに類似した）リスニング問題やリーディング問題を解いていきます。その際、正解を導き出すために必要となる語彙や文法事項を基礎から学び、それらを正しく理解することで英語運用能力の向上を目指します。TOEIC の問題に準拠した、テーマ別 20 ユニットの実践的な練習問題を積み重ねることにより、英語の基礎力向上と TOEIC の得点アップにつなげます。ユニット毎に確認小テストを課します。					
到達目標	実践力を身につけ、TOEIC L&R テストで 400 点以上をとることができる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	授業の説明・TOEIC 出題形式の概観	16	前期の復習・前期期末試験の解説			
2	Unit 1: Shopping	17	Unit 11: Office Equipment			
3	Unit 2: Health	18	Unit 12: Entertainment			
4	Unit 3: Travel	19	Unit 13: Personnel Affairs & Job Hunting			
5	ここまでの復習	20	ここまでの復習			
6	Unit 4: Weather	21	Unit 14: Contracts			
7	Unit 5: Communication	22	Unit 15: Shipment & Delivery			
8	Unit 6: Home & Family	23	Unit 16: Meetings			
9	ここまでの復習	24	ここまでの復習			
10	Unit 7: Requests & Negotiation	25	Unit 17: Environment & Energy			
11	Unit 8: Transportation	26	Unit 18: Hotels & Restaurants			
12	ここまでの復習	27	ここまでの復習			
13	Unit 9: Production & Control	28	Unit 19: PR & Advertising			
14	Unit 10: Economy & Management	29	Unit 20: Events & Parties			
15	ここまでの復習	30	ここまでの復習			
予習内容 復習内容	予習：各ユニット Step 1 の単語を確認し、「英語の仕組み」を読み、並び替え問題をやっておく。 復習：授業後に問題をすべて解き直し、次回授業冒頭でおこなう確認小テストの準備をしておく。					
教科書	STEP-BY-STEP PREP FOR THE TOEIC L&R TEST Basic Course TOEIC L&R TEST ステップ式徹底演習〈初級〉編 (アルク)					
成績評価	「前期・後期期末試験」50% (50 点*2 回：計 100 点) + 「小テスト」50% (5 点*20 回：計 100 点) 出席状況や授業態度は各成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料とする。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席 5 回」を超えた場合、評価の対象外とする。</li> <li>・ 小テストがある授業回に遅刻・欠席した場合、小テストの受験は認めない。</li> <li>・ 授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。</li> </ul>					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語Ⅱ	花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	中国語Ⅰで学習した文法事項を確認しながら、より多彩な中国語の表現を学びます。教科書は初中級レベルのものを使用し、無理なくじっくり進めていきます。 リスニング、簡単な会話・音読や自由作文など、中国語を実際に使うトレーニングを行います。 また、中国語の背景にある文化や社会についても、引き続き学びます。					
到達目標	語彙や表現を増やし、中国語を使用した日常的な会話、作文ができるようになることを目標とします。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス・一年次の復習	16	前期の復習・『～と思う』・『～だそうだ』			
2	比較文・『～以外に』・動詞を使った名詞句	17	本文講読・第5課トレーニング			
3	結果補語・会話練習	18	『もうすぐ～だ』・『過ごす』・動詞「祝」			
4	本文講読・第1課トレーニング	19	前置詞「為了」・会話練習			
5	『～のとき』・方向補語「起来」	20	本文講読・第6課トレーニング			
6	副詞「才」・動詞「知道」	21	『たとえ～でも』・『～もあれば～もある』			
7	本文講読・第2課トレーニング	22	「一定要～」・会話練習			
8	『～したばかり』・「把」構文	23	本文講読・第7課トレーニング			
9	「因為」・「原来」・会話練習	24	『～しながら…する』・副詞「只好」・可能補語			
10	本文講読・第3課トレーニング	25	動詞「希望」・会話練習			
11	前置詞「对」・二つの「要」	26	本文講読・第8課トレーニング			
12	『なぜ』・『～だけれども…だ』・会話練習	27	『～だけではなく、また…』・持続			
13	本文講読・第4課トレーニング	28	『少しも～ない』・会話練習			
14	『～とは思わなかった』・蓋然性の助動詞「会」	29	本文講読・第9課トレーニング			
15	前期の総復習	30	後期の総復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んできると。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書	鄭高咏著『音読&会話で深める中国語 中級アイテム15』（朝日出版社） この他、授業内で補助資料の配布があります。					
成績評価	平常点50%、前・後期の期末試験50%で成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。 ※「中国語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行いますので、中国語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語Ⅱ	今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	<p>「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済み、または「ドイツ語Ⅰ」と同時に履修する方のための科目です。  「ドイツ語Ⅰ」で学ぶ文法事項をベースにして、聴き取り、発音、会話、読解などの練習を行い、簡単なドイツ語（ドイツ語検定試験5～4級程度）を使って口頭でのコミュニケーションができるようになることを目指します。</p>					
到達目標	<p>①初歩的なドイツ語（検定試験5～4級程度）を聴いて理解することができる。  ②初歩的なドイツ語を自ら使用することができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、発音の復習	16	第5課 住まい、値段の表現、数字			
2	発音の復習、挨拶	17	第5課 聴き取り、会話練習			
3	第1課 挨拶、自己紹介の表現	18	第5課 読解、文法の確認			
4	第1課 聴き取り、会話練習	19	第6課 家族について話す			
5	第1課 読解、文法の確認	20	第6課 聴き取り、会話練習			
6	第2課 職業をたずねる／答える表現、数字	21	第6課 読解、文法の確認			
7	第2課 聴き取り、会話練習	22	第7課 趣味について話す			
8	第2課 読解、文法の確認	23	第7課 聴き取り、会話練習			
9	第3課 友人を紹介する表現	24	第7課 読解、文法の確認			
10	第3課 聴き取り、会話練習	25	第8課 プレゼントをする／探す、数字			
11	第3課 読解、文法の確認	26	第8課 聴き取り、会話練習			
12	第4課 レストランでの会話表現	27	第8課 読解、文法の確認			
13	第4課 聴き取り、会話練習	28	第9課 予定、規則、願望などについて話す			
14	第4課 読解、文法の確認	29	第9課 聴き取り、会話練習			
15	前期の復習	30	第9課 読解、文法の確認			
予習内容 復習内容	<p>予習：学習する「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、教科書の音声聴き、音読する。  復習：学んだ表現の音読練習をする。参考書や「ドイツ語Ⅰ」の教科書などで文法の復習をする。</p>					
教科書	<p>①『Spitze! 1』（シュピッツェ! 1）朝日出版社  ②独和辞典（「ドイツ語Ⅰ」と同じものでよい）</p>					
成績評価	<p>前期課題40%、後期課題60%程度の割合で成績評価を行う。講義内で行う小テスト等は参考程度（マイナス評価の材料にはしない）。成績評価を受けるには、前後期とも10回以上の出席が必要（遅刻・早退は0.5回の出席とみなす）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語Ⅱ	青木 幸美	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語をはじめて学ぶ人のために作られた教科書を用います。したがって、初心者も受講可能です。教科書の表題『C'est bon! セ・ボン!』は「おいしい!」という意味で、各課の話題のテーマは「食」と、比較文化です。最小限の文法事項を理解し、最大限の実践を試みて、フランス語を味わい、文化について考えることが目的です。					
到達目標	フランス語日常会話の基本的表現を使うことができ、自然なリズムで会話をするようになる。フランス語のレシピを読んで実際に試作し、和食のレシピをフランス語で書いて説明できるようになる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	Leçon 0: Bonjour! 挨拶・授業の進め方		16	Leçon 6: Vous avez pris ~? ~を注文しましたか? 複合過去		
2	Leçon 0: un, deux, trois 数字		17	Leçon 6: レストランのフランス語		
3	Leçon 1: ~, s'il vous plaît. ~をください。		18	Leçon 7: Il faut ~. ~が必要です。		
4	Leçon 1: ~, s'il vous plaît. 名詞表現		19	Leçon 7: 「faire する」「pouvoir できる」		
5	Leçon 2: Qu'est-ce que c'est? 何ですか?		20	Leçon 8: もっと濃いコーヒーが欲しい。		
6	Leçon 2: C'est ~. ~です。		21	Leçon 8: 比較級、最上級		
7	Leçon 2: Je suis cuisinier. 私は料理人です。		22	Leçon 9: おすすめは何ですか?		
8	Leçon 3: Vous aimez ~? ~は好きですか?		23	Leçon 9: 好みの表現		
9	Leçon 3: Je n'aime pas le poisson. 魚は好きではありません。		24	Leçon 10: Écoute bien! ちゃんと聞いて!		
10	Leçon 3: 料理名のフランス語		25	Leçon 10: C'est sympa! いい!		
11	Leçon 4: Vous avez une réservation? 予約していますか?		26	Leçon 11: どれくらいかかりますか?		
12	Leçon 4: Vous avez ~? ~はありますか?		27	Leçon 11: キッチンのフランス語		
13	Leçon 5: Je vais prendre ~. ~をください。		28	Leçon 12: Je me lève tôt. 私は早く起きます。		
14	Leçon 5: Je n'ai pas très faim. あまりおなかがすいていません。		29	Leçon 12: フランス語のルセット(レシピ)を読む。和訳する。		
15	Leçon 5: 近接未来、近接過去		30	Leçon 12: 和食のレシピを仏訳する。		
予習内容 復習内容	毎回、学習した語彙や基本文の発音、聞き取りを繰り返し復習すること。授業のはじめに基本文の聞き取りをおこなうので、その準備として既習の基本文を確認し、練習しておくこと。					
教科書	黒木秀房、畠山香奈、加藤三和、Sonia Silva 『C'est bon! セ・ボン!』駿河台出版社					
成績評価	授業中におこなう聞き取り 60%、ルセットの和訳とレシピの仏訳の筆記 40%。					
実務経験						
その他 特記事項	フランス語検定受験のためには別途練習問題に取り組む必要がある。希望者は申し出てください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I	笠 浩一朗	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。特に、オフィスソフトは、あらゆる業種で仕事に欠かせないものになっている。本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義では、アプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組む。					
到達目標	本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識及び基本操作を習得すること、及び、到達目標に指導する。					
回	学習内容					
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作					
2	Word の基礎 1（各部の名称、ページ設定、文書入力、スタイル）とタイピング練習					
3	Word の基礎 2（表の作成、SmartArt グラフィック）					
4	Word の基礎 3（図の作成、ヘッダーとフッター）					
5	Word の基礎 4（段組み、数式）					
6	Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）					
7	Excel の基礎 2（絶対参照と相対参照、関数）					
8	Excel の基礎 3（グラフの基礎）、データリテラシー 1（データを読む）					
9	Excel の基礎 4（グラフの応用）、データリテラシー 2（データを説明する）					
10	Excel の基礎 5（表計算の応用）、データリテラシー 3（データを扱う）					
11	PowerPoint の基礎（スライドマスタ、入力方法、図表の挿入）					
12	最終課題の作成 1（最終課題の内容説明、課題のための情報収集）					
13	最終課題の作成 2（発表資料、配布資料の作成）					
14	最終課題の発表					
15	最終課題の発表と本講義のまとめ					
予習内容 復習内容	次回の講義について、教科書を事前に読んで確認しておくこと。 課題は、講義内では完了しないことが多いので、講義外でも課題に取り組むこと。					
教科書	「Microsoft Office2019 を使った 情報リテラシーの基礎」, 近代科学者 (ISBN978-4-7649-0601-3)					
成績評価	Word 課題 (20%)、Excel 課題 (20%)、PowerPoint 課題 (10%)、最終課題 (50%)					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習Ⅱ	笠 浩一郎	実習	1		4	4
授業概要 授業目的	現在、情報をもとに問題解決に取り組む能力が社会で求められている。本講義では、問題解決能力を高めるために必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義の前半では、Excel を用いて、データ分析やデータの可視化（表やグラフの作成）を行う。講義の後半では、RESAS（地域経済分析システム）を利用して、情報の収集、分析について学ぶ。					
到達目標	問題解決能力で必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作					
2	Excel の基本操作（データの入力、表の作成、基本的な関数）					
3	Excel の応用 1（統計的な関数、プルダウンメニュー）					
4	Excel の応用 2（情報の可視化、グラフの作成方法）					
5	Excel の応用 3（相関分析、CORREL 関数、オープンデータ）					
6	Excel の応用 4（データによる予測、e-Stat）					
7	Excel の応用 5（データベース、クロス集計、ピボットテーブル）					
8	中間課題					
9	RESAS の基本操作 1（RESAS を用いたデータ収集）					
10	RESAS の基本操作 2（RESAS を用いたデータ分析）					
11	最終課題の作成 1（最終課題の内容説明、分析の模式図の作成）					
12	最終課題の作成 2（分析の模式図の修正と発表資料の作成）					
13	最終課題の作成 3（発表資料の作成）					
14	最終課題の発表					
15	最終課題の発表と本講義のまとめ					
予習内容 復習内容	授業前に情報処理実習Ⅰの復習などをして予習しておくこと。 毎回の小課題は授業内だけでは終わらないので、授業外でも課題に取り組むこと。					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	小課題（30%）、中間課題（20%）、最終課題（50%）					
実務経験	なし					
その他 特記事項	パソコン操作に不慣れな人は、予習と復習を積極的に取り組むこと。 情報処理実習Ⅰを履修済みであることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
プログラミング基礎	眞田 耕輔	講義	2		4	4
授業概要 授業目的	現在、情報分野に携わる人材だけでなく、あらゆる分野を専門とする人にとって、プログラミングの技能を身につけることは必要になってきている。本講義では、Python を用いて、変数、関数、制御文（条件分岐、繰り返し）など、プログラミングの基本的な概念、記述方法を解説するとともに、プログラミングの演習を行い、実践的にも学びます。Python の基礎を修得することを本講義の目的とする。					
到達目標	基本的な問題が与えられたときに、それを解くアルゴリズムを考え、実際にプログラミングできることを到達目標とする。					
回	学習内容					
1	プログラミングとは、変数とデータ型					
2	コレクション					
3	条件分岐					
4	繰り返し					
5	関数					
6	オブジェクト					
7	モジュール					
8	中間テスト					
9	機械学習とは					
10	機械学習によるデータ分析					
11	機械学習を用いた分類					
12	機械学習を用いた回帰					
13	期末課題のテーマ決め					
14	期末課題の分析の実施					
15	期末課題の分析結果の報告					
予習内容 復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。 授業で紹介した内容を、実際にプログラミングして復習すること。					
教科書	スッキリわかる Python 入門、インプレス、（ISBN:9784295006329）					
成績評価	中間テスト（40%）、期末課題（60%）					
実務経験						
その他 特記事項	予習、復習のために Windows または Mac の PC を所有していることが望ましい。 統計学についての基礎知識を取得済みであることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義	石川 拓次	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	本講義では、身体のしくみを知り、効率的に運動することの重要性を理解し、身体活動を通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけることの必要性について学ぶ。さらに、スポーツ文化に親しみ、スポーツが多文化共生とどのように関わっているかペア討議を通して理解することを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニングに関する知識を理解することができる。（知識・理解）</li> <li>・健康・疾患と生活習慣の関係について考えることができる。（思考・判断）</li> <li>・スポーツイベントやスポーツに関する諸問題について考えることができる。（思考・判断）</li> </ul>					
回	学習内容					
1	第1回 オリエンテーション・コンセンサスゲーム					
2	第2回 健康とは？					
3	第3回 身体の仕組み（内科編）					
4	第4回 内科的疾患①生活習慣病					
5	第5回 内科的疾患②がん・感染症					
6	第6回 身体の仕組み（運動器編）					
7	第7回 トレーニングと健康（骨格筋と運動）					
8	第8回 トレーニングと健康（呼吸循環器と運動）					
9	第9回 こどもとスポーツ					
10	第10回 高齢者とスポーツ					
11	第11回 女性とスポーツ					
12	第12回 スポーツ外傷・障害の基礎					
13	第13回 スポーツと栄養					
14	第14回 スポーツに関わる諸問題					
15	第15回 スポーツイベント					
予習内容 復習内容	各講義ごとに出される講義内容に関連した事前課題および事後課題に取り組み提出を行う。（各回 90分程度）					
教科書	指定しない					
成績評価	定期試験（筆記）試験は行わない。 課題レポート（50%）、授業時の提出物（50%） 評価基準：課題レポートは受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのものである。授業時の提出物は授業内容を踏まえて的確に自分の考えを記述しているかを評価する。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技	石川 拓次	講義	1		2	4
授業概要 授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。（知識・理解）</li> <li>2 それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。（思考・判断）</li> <li>3 生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。（思考・判断）</li> </ol>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・体力測定					
2	バドミントン (1) 基本的なストローク					
3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦 1					
4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦 2					
5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)					
6	バスケットボール (2) 総当たり戦 1					
7	バスケットボール (3) 総当たり戦 2					
8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール					
9	バレーボール (2) 総当たり戦 1					
10	バレーボール (3) 総当たり戦 2					
11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス					
12	卓球 (2) 総当たり戦 1					
13	ニュースポーツ (1) インディアカ					
14	ニュースポーツ (2) インディアカ					
15	体力測定					
予習内容 復習内容	授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。（毎回 90 分程度）					
教科書	指定しない					
成績評価	<p>定期試験（筆記）は行わない。</p> <p>授業への積極的態 度 30% 体力測定 40% レポート 30%</p> <p>評価基準：体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。</p>					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論	古山 歩	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。					
到達目標	(1) 現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 (2) 環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、生物の分類・生物多様性、生態系とそのサービス					
2	基礎的な生態学					
3	環境問題の概要					
4	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響					
5	地球温暖化Ⅱ：対策と課題					
6	再生可能エネルギーの利点と課題					
7	都市開発					
8	海洋汚染					
9	生物の乱獲・混獲					
10	捕鯨					
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響					
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題					
13	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト					
14	生物の保護・増殖事業					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。					
教科書	なし。講義にて資料を配布する。					
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40% 試験：60% 1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
教育学	伊東 直人	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について理解するとともに、教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みについて学習する。さらに、生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について学ぶ。加えて、実際に就職した際に求められる力量の基礎を身に付けるため、グループディスカッションを行うなど参加型の授業の手法を取り入れ、グループによる課題調査・討論を実施する。					
到達目標	1) 教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について説明することができる。 2) 教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みを説明することができる。 3) 生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について説明することができる。 4) グループ討議・発表において、積極的に議論へ参加することができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、教育の意義と本質					
2	教育の必要性と可能性					
3	社会化と学校教育の位置・役割					
4	教育関連法制度、及び教育行政機関の役割と学校との関わりについて					
5	国における教育政策の動向					
6	教育行政の変容					
7	教育委員会制度の見直し					
8	生涯学習体系への移行					
9	学校の経営と学校評価					
10	令和の日本型学校教育					
11	教育の機会均等Ⅰ 義務教育制度を踏まえて					
12	教育の機会均等Ⅱ 不登校・いじめ問題・貧困・ヤングケアラー等子どもをめぐる課題を踏まえて					
13	学校危機管理					
14	学校における ICT 活用					
15	子ども・子育て支援制度と幼児期の教育					
予習内容 復習内容	最新の教育時事や教育情報収集を日常的に行う。また、事前学習として参考資料等を活用し、まとめを2時間、事後学習として授業スライドのまとめを2時間程度行うこと。講義受講用のノートを作成し、テキスト内容をまとめるなどの事前学習、授業後のまとめを行うこと。					
教科書	適宜資料を配布する。					
成績評価	最終レポート（40%）、小レポート・授業振り返り（40%）、授業の参加意欲・討議への参加度（20%）					
実務経験	18年間の小学校教諭を経て、平成14～21年度指導主事（8年）、平成22～23年度小学校教頭（2年）、平成24～令和元年度小学校長（8年）として勤務					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生涯学習論	長島 洋	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	<p>*生涯学習の基礎知識を学ぶとともに、身近な問題を取りあげ、生涯学習社会の重要性を学びます。</p> <p>*「いつでも、だれでも、どこでも学習することができ、その成果が活用される社会をめざす」生涯学習社会の実現にむけて生涯、学ぶことのできる方策を考え、プランニングをします。</p> <p>*自分のふるさとやその他、市町村、県等をモデルに、地域の課題解決のためにどのような生涯学習プランが必要かを考察し、生涯学習プログラムを作成し、生涯学習社会の実現にむけて考えます。</p> <p>*地域を見つめなおし、様々な課題解決にむけた取り組みを進めるための学習プログラム作成します</p>					
到達目標	<p>1 生涯学習について国の政策も交え、基礎知識を身につけ、自ら学び続けることができる。</p> <p>2 モデル市町村の地域課題を把握し、課題解決に向けた学習プランを作成することができる。</p> <p>3 地域の課題を解決するために、自らが、行動できる力を身につけることができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション	生涯学習とは何か 生涯学習社会の実現にむけて				
2	生涯学習の基礎	理念・考え方 日本国憲法、教育基本法 社会教育法等				
3	社会教育と生涯学習	社会教育法より 生涯学習理念の理解および、社会教育の理解				
4	まちづくりと生涯学習	課題解決にむけて人々の生涯学習とまちづくりとの関係				
5	公民館と生涯学習	地域に根差した生涯学習の拠点としての公民館の役割及び社会教育施設の役割				
6	人権学習と生涯学習	人権学習の重要性 学びをとおして 生涯学習社会の柱としての人権学習				
7	青少年教育と生涯学習	青少年をめぐる、学校と地域・家庭との連携の必要性 学社融合				
8	防災学習と生涯学習	災害を通して、防災についで地域の住民の学習の重要性と学習プログラム				
9	幸せのための生涯学習	さまざまな地域課題解決にむけて生涯学習プログラム作成のための基礎				
10	生涯学習プログラムの作成	モデル市町村の概要、特色等 調査及び理解				
11	生涯学習プログラムの作成	地域住民の生活状況・教育文化施設等の整備状況 課題等の理解				
12	生涯学習プログラムの作成	地域課題の把握・課題解決にむけた考察 プログラム作成				
13	生涯学習プログラムの作成	学習プログラムの具体的ノウハウと企画 広報 実施にむけて				
14	生涯学習プログラムの作成	予算・場所等 企画実施にまでの準備と実施 リスクマネジメント				
15	試験（プログラムの完成）と生涯学習プログラムのシェアリングおよびプレゼン PR					
予習内容	予習 事前にモデル市町村の情報を収集すること					
復習内容	復習 毎回だされる課題の整理					
教科書	資料は毎回配布します。 テキストは使用しない。 参考文献については資料に提示。					
成績評価	毎回提出してもらった課題またはレポート60% 試験（生涯学習プログラムの完成物）40% 6回以上欠席の場合、無資格となります。					
実務経験	文部科学省生涯学習局、三重県教育委員会生涯学習課 三重県熊野少年自然の家、三重県生涯学習センター所長として勤務。長年の生涯学習分野での実務をとおして生涯学習の重要性を示します。					
その他 特記事項	様々な学びのチャンネルをとおして、自分たちが幸せに生きるために、大切な「学び」を伝え、受講者自ら企画してもらったプログラムを楽しみにしています。一緒に、学びましょう。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権	伊藤 信也	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	<p>1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。</p> <p>2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために、随時映像資料を上映する予定です。</p>					
到達目標	<p>①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。  ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。  ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。</p>					
回	学習内容					
1	授業概説：現代社会と人権					
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生					
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由					
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題					
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち					
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい					
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態					
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題					
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～					
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～					
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ					
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制					
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造					
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史					
15	21世紀の人権問題への視点を考える					
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。					
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は20%）					
実務経験						
その他 特記事項	歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。人権問題や差別問題に関心のある学生による積極的な授業参加と授業環境の保持を求めます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ジェンダー論	松田いりあ	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。					
到達目標	この授業では、学生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。					
回	学習内容					
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明					
2	ジェンダーとは					
3	セクシュアリティとは					
4	ジェンダーの社会化					
5	ジェンダーと子育て、教育					
6	パートナーシップ、セクシュアリティとジェンダー					
7	ジェンダーと労働					
8	ジェンダーと身体					
9	ジェンダーとスポーツ					
10	ジェンダーと空間					
11	ジェンダーに関する条約、法律					
12	「男性性」と男性学					
13	広報・広告における女性表象					
14	ファッション・メディアにおける女性表象					
15	まとめ					
予習内容 復習内容	予習：前回の授業内容の確認。 復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に伝える。					
成績評価	授業内課題 50%、レポート 50%。全 15 回のうち 10 回以上の出席者が成績評価の対象となる。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
歴史学	望月 秀人	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思えます。					
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：歴史学とは					
2	大航海時代と世界の一体化					
3	宗教改革と宗派分裂					
4	宗教戦争と世俗化					
5	中世の封建制					
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ					
7	「絶対王政」の意義と限界					
8	フランス革命の勃発					
9	「市民革命」と近代国家					
10	革命とナショナリズムの時代					
11	工業化とその影響					
12	第一次世界大戦の衝撃					
13	戦後処理方法の変化					
14	大恐慌とファシズム					
15	近代という時代について					
予習内容 復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。					
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のものであれば良いでしょう。					
成績評価	定期試験 60%、レポート 40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6 回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。					
実務経験						
その他 特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地理学	山崎 智博	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	日本国内を中心にして都市・地域を人文地理学の立場から考察する。私たちが生活している都市や地域は単独で存在しているのではなく他の都市や地域との結びつきの中で存在している。またその内部構造も単一ではなく様々な要素により構成されている。歴史的な経緯を踏まえてこうした結びつきや構造を理解することにより、私たちが生活する地域の特徴や問題を考えていくことができるようになってもらいたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市・地域を人文地理学の立場から理解できるようになる。</li> <li>・都市・地域の性格や抱えている問題を説明できるようになる。</li> </ul>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（都市・地域の人文地理学）					
2	都市・地域とは					
3	都市・地域の歴史					
4	都市・地域の結合関係					
5	都市の内部構造					
6	都市の商業・サービス業					
7	都市の工業					
8	都市のオフィス立地					
9	都市・地域の交通					
10	都市のエスニック集団					
11	大都市圏構造					
12	住宅と住居					
13	都市問題・都市計画					
14	都市を歩く					
15	地域・都市の人文地理学まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献等に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	1回の授業で1つのテーマを扱う予定です。ただしテーマに関する資料などを使うことにより進度を調整する場合があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学	吉本 陵	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。					
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。					
回	学習内容					
1	ガイダンス&イントロダクション					
2	哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論					
3	哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味					
4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて					
5	現代社会と動物の問題（2）家畜について					
6	現代社会と動物の問題（3）肉食について					
7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則					
8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状					
9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想					
10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について					
11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について					
12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題					
13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状					
14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題					
15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？					
予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りをする事。					
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。					
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学 I	今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでも分かりにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕					
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕					
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕					
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕					
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕					
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕					
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕					
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』					
10	シェリー『フランケンシュタイン』①					
11	シェリー『フランケンシュタイン』②					
12	シェリー『フランケンシュタイン』③					
13	メリメ『カルメン』					
14	デュマ・フィス『椿姫』①					
15	デュマ・フィス『椿姫』②					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が 5 回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始 20 分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学 I」と「文学 II」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ	今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。					
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）					
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部					
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部					
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』					
5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半					
6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半					
7	ゲーテ『魔王』					
8	グリム童話					
9	シャミッソー『影をなくした男』					
10	ホフマン『砂男』					
11	シュペーリ『ハイジ』①					
12	シュペーリ『ハイジ』②					
13	カフカ『変身』					
14	シュリンク『朗読者』第1部					
15	シュリンク『朗読者』第2、3部					
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。					
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。					
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。					
実務経験						
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
美学	岡野 智子	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学などとも深い関わりをもつ。 本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、絵画や工芸品を通じて多方面から考察、人々の暮らしや人生、社会における美の在り様に理解を深める。					
到達目標	伝統的な意匠への知見を深め、講義毎に作品と対峙して自己の内なる感性を培い課題に表し、その積み重ねを以て自己の美意識を豊かに築き明確に表現する力を養う事ができる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション・日本美術の成立1（縄文～平安）					
2	日本美術の成立2（平安～桃山）					
3	日本美術の成立3（江戸）					
4	吉祥の意匠―福を招く図様―					
5	桜の意匠―桜への想いとその表象―					
6	涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―					
7	秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―					
8	冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―					
9	月次絵の楽しみ1―年中行事と景物―					
10	月次絵の楽しみ2―花鳥と風俗―					
11	伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―					
12	源氏物語の意匠―留守模様遊ぶ―					
13	動物の意匠―霊獣からペットまで―					
14	渡来の意匠と表現1―憧れの南蛮ファッション―					
15	渡来の意匠と表現2―西洋画風の影響―					
予習内容 復習内容	各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、授業内容を振り返りつつ作品と向き合う経験を通して自らの「見る力」を養う（経費は自己負担、自己責任で行う）。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを推奨する（現況では感染防止策を十分に講じて実施すること）。					
教科書	教科書は使用しない。資料を毎回配布。参考文献は初回の講義でリストを配布。					
成績評価	①授業時に出席時に提出するコメント内容 50% ②展覧会等の見学レポート内容 20% ③期末レポート内容 30%（②については感染状況により比率を③と調整することがある）					
実務経験						
その他 特記事項	オリエンテーションで重要な連絡を行う。受講希望者は必ず初回の授業に出席し、そこで提示の受講注意に同意の上、履修すること。毎回講義で触れた作品の中からコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ③の提出資格が得られる。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
比較文化論	嶋田 宏司	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビズムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。 芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。					
到達目標	西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。 美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。					
回	学習内容					
1	フランスにおける、レアリズムから印象主義まで					
2	ギュスターヴ・クールベ					
3	バルビゾン派 1					
4	バルビゾン派 2					
5	印象主義とクロード・モネ					
6	印象主義の展開と技術的、および理論的側面					
7	黒田清輝、久米桂一郎					
8	藤島武二					
9	青木繁					
10	梅原龍三郎					
11	梅原龍三郎、安井曾太郎とフォーヴィスム					
12	安井曾太郎					
13	萬鉄五郎					
14	萬鉄五郎とキュビズム					
15	学んできた美術史を振り返る					
予習内容 復習内容	予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでもいいですが、『そのとき、西洋では 時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。					
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。					
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象外とします。					
実務経験						
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域史	山崎 智博	講義	2		3	5
授業概要 授業目的	三重県の近現代史を都市や地域の形成過程を中心にして見ていく。三重県内には様々な特徴を持った都市・地域が存在している。そのような都市・地域が形成されてきた歴史的背景を知ることによりそれぞれの都市や地域の特徴を理解していけるようになるだけでなく、現在抱えている様々な問題を理解していけるようになってもらいたい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県の都市や地域の形成過程を身につけられるようになる。</li> <li>・歴史的な経緯を踏まえて三重県内の都市や地域を理解し説明できるようになる。</li> </ul>					
回	学習内容					
1	三重県の近現代（オリエンテーション）					
2	明治の三重：三重県の誕生と市制町村制の施行					
3	明治の三重：鉄道の開設と三重					
4	第1次世界大戦後の三重：県内私鉄鉄道の消長と電化					
5	第1次世界大戦後の三重：都市計画法の実施と三重					
6	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：商業の近代化と百貨店・道路交通網の整備・鉄道の建設と統廃合					
7	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：都市計画事業の実施と戦争					
8	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：戦時下の都市計画					
9	戦後復興期の三重：戦災と戦災復興計画					
10	戦後復興期の三重：復興期の交通					
11	高度成長期の三重：流通の近代化と商店街					
12	高度成長期の三重：鉄道交通と観光開発の進展					
13	低成長期の三重：道路交通網の整備と地域交通					
14	低成長期の三重：大型店の伸張と都市・観光					
15	三重県の近現代史まとめ					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。					
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。					
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図、写真、映像資料等を適宜使用する予定です。</li> <li>・地図、写真、映像資料等を扱うので授業の進度は調整することがあります。</li> </ul>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自治体行政特論	石原 洋介	講義	2		3	5
授業概要 授業目的	この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定しており、自治体行政の仕組み等を理解することが、本講義の目的となる。 法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することで理解が深まる。					
到達目標	現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深められる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション、津市の概況、防災について（防災室）					
2	津市の政策について（政策財務部）					
3	財政について（政策財務部）					
4	津市の福祉について（健康福祉部）					
5	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）					
6	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）					
7	津市の教育について（教育委員会事務局）					
8	都市計画について（都市計画部）					
9	環境行政について（環境部）					
10	選挙について（選挙管理）、津市議会傍聴にむけて					
11	津市議会傍聴【12月】※津市議会 HP の映像配信の市長					
12	津市シティプロモーション（広報課）					
13	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）					
14	参加と協働のまちづくりについて（市民部）					
15	自治体経営（市長）					
予習内容 復習内容	予習：各講義内容について津市 HP 等を活用し、担当部課の業務内容に目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義中の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	教科書・参考文献の指定はない。 毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。					
成績評価	出席時の講義ノート（60%）、議会傍聴レポート（40%）を併せて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外とする。					
実務経験	講師は、現職の津市長をはじめ各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かし、実践的な自治体基礎知識の養成に努める。					
その他 特記事項	毎回、講義の概要、感想等をまとめた「講義ノート（A4判）」を提出する。 12月津市議会を傍聴し、「議会傍聴レポート（A4判）」を提出する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
キャリア形成セミナー	南 有哲	講義	2		2, 3	5
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。</li> <li>・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます（講師は毎回変わります）。</li> <li>・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。</li> </ul>					
到達目標	全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。					
回	学習内容					
1	ガイダンス（学生部長）／就職活動と目標設定					
2	起業について					
3	ハラスメントと職場環境					
4	企業から求められる人材とは					
5	地域貢献を仕事にする					
6	変化の激しい時代にやるべきこと					
7	地域を知る、地域で働く					
8	ライフプランと金融リテラシー					
9	ポジティブ心理学と SDGs					
10	税を知る					
11	防災とまちづくりに関わる					
12	中小企業と信用保証協会の役割					
13	公的年金制度を学ぶ					
14	労働関連の法律を知る					
15	まとめレポートの作成					
予習内容 復習内容	事前にお知らせする各講師のテーマについて調べ、各回を終えた後に考察メモを復習してください。					
教科書	テキストは使用しない。毎回、各講師より配布されるレジュメ・資料を使用します。					
成績評価	出席状況や毎回の小レポート、最終レポートの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。5回を超えて欠席した場合、評価の対象外とします。					
実務経験	津市長、労働局職員、社会保険労務士をはじめとする各分野の専門職の方々がそれぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などをお話しします。					
その他 特記事項	2024年4月の開講時点で、あらためてシラバスを配布する予定です。 <u>1年生の履修を原則とします。</u>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目 I	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	<p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。</p>					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目Ⅱ	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	<p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
農林体験セミナー	石原 洋介	実習	2		2, 3	4
授業概要 授業目的	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。</li> <li>2024年8月28日（水）～8月30日（金）の3日間、農場で実施予定（宿泊）</li> </ul> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、平倉演習林（津市美杉町）において3日間の実地演習、講義を実施する。</li> <li>2024年9月18日（水）～9月20日（金）の3日間、演習林で実施予定（宿泊）</li> </ul>					
到達目標	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。</li> </ul> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。</li> <li>演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。</li> </ul>					
学習 内容	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <p>(1)授業の概要説明、(2)三重の特産農産物の概要、(3)ダイズの栽培管理、(4)世界と日本の食糧事情、(5)イネの収穫、(6)肉牛（松阪牛）の肥育管理、(7)豆腐作り、(8)食の安全・安心と社会、(9)茶（伊勢茶）の加工Ⅰ（茶の栽培、歴史、加工の原理など）、(10)茶（伊勢茶）の加工Ⅱ（茶の加工の実践）、(11)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅰ（一年を通じたウンシュウミカンの栽培管理の概要）、(12)ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅱ（摘果、水管理など栽培管理の実践）、(13)うどん作り（うどん作りの歴史、加工の原理など）、(14)うどん作りⅡ（うどん作りの実践）、(15)授業の総括</p> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <p>(1)～(5)（1日目）演習林の概要、宿舎利用に関する注意事項の説明、森林の多面的機能についての林内学習、天然生林・二次林の林分構造と植生観察、紀伊半島暖温帯に位置する演習林の特徴的な樹木を覚える、人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学、(6)～(10)（2日目）日本の森林・林業の課題解説、身近な木製品とトレーサビリティについて調べる、林業体験：人工林内での間伐・伐倒から玉伐り、林産加工：コースター加工、丸太ベンチ製作、(11)～(15)（3日目）環境学習：涼しい森林溪流環境での散歩学習とふりかえり、レポート作成、ディスカッション、最終レポート作成、帰路：木材市場などを経由し帰学。</p> <p>※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林と周辺地域が学習対象です。以下を見ておくことをお勧めします。(1)三浦しをん著「神去なあなあ日常」(2)映画「WOODJOB!」のDVDまたはBD。</p>					
予習内容 復習内容	<p>①農場コース（土は生きている）</p> <p>事前：moodleに授業で使用する資料を予め載せておくので予習しておく。 事後：授業項目で課される課題について、授業内容を基に授業で使った資料に加え、関連事象を自分で調査するなど復習しておく。</p> <p>②演習林コース（森は生きている）</p> <p>事前：森林・林業林産業・環境保全に関する話題や時事問題について調べておく、具体的なテーマ・キーワードを事前に示すので課題に沿った予習を行い各自プレゼンができる準備をしておく。 事後：授業項目で示される課題について、講義・実習の学習内容をふまえて最終レポートにまとめること。</p>					
教科書	必要に応じて資料を配布する。					
成績評価	<p>①農場コース：レポートならびに授業態度を総合判断する。</p> <p>②演習林コース：演習への取り組み態度50%、レポート50%。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林で講義・実習・体験学習を行うものです。本講義は、①農場コースと、②演習林コースの2コースがありますが、両コースの同時受講はできません。</li> <li>希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。</li> <li>受講生は事前に開催するガイダンスに参加すること（日程は決まり次第掲示します）。</li> <li>受講要件 学生教育研究賠償責任保険に加入すること。</li> </ul>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
食と観光実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	5
授業概要 授業目的	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。					
学習 内容	<p>10月上旬 「ガイドンス」 13：00－14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10－15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20－17：00 グループワーク</p> <p>10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00－15：30 展示見学・講義 15：40－17：00 グループワーク</p> <p>10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00－12：00 施設見学・体験 12：00－13：00 昼食・移動 13：00－14：00 農を活かした観光開発 14：10－16：10 グループワーク</p> <p>11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00－16：10 フィールドワーク</p> <p>12月上旬 「食と観光を考える」 13：00－17：00 グループワーク</p> <p>12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00－16：00 成果発表会 16：00－17：00 講評・まとめ</p> <p>※受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。</p>					
予習内容 復習内容	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。					
教科書	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）					
成績評価	①グループワーク等への取組姿勢 60%、②成果発表レポート 40% ※一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。					
実務経験	行政での委員経験があります。講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。					
その他 特記事項	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
次世代産業実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	4
授業概要 授業目的	近年、社会のデジタル化が著しく発展しており、社会変革の転換点となっている。様々なデジタルツールが、個人でかつ無料で提供され、時間や労力のかかっていた知的生産物は苦勞することなく瞬時に生み出せるようになってきた。しかしながら、一方ではこのデジタル化の変化に適応できなければ、社会で必要とされる能力を獲得できない可能性が高い。そのような変革期において、最先端のデジタル技術に触れ、それらを実践的に利用することで、今後ますます加速する情報化社会の変貌に対し次世代を担う三重創生ファンタジスタとして備えるべき発想力と実践力を学ぶ。					
到達目標	現在、利用可能なデジタルツールについて知り、それらを扱えるスキルを身につけることで、地域や組織へのアプローチを考えソリューションを導き実行できる力を獲得する。過去の産業構造から、現在、未来へ進化する産業・社会を見通し、常に時代の流れを読むと同時に、膨大な労力や時間を要する課題に対し、これらのツールとスキルを用いて、少ない人材で解決する可能性を提示する人材となる。本科目では三重県の地域として特徴的な魅力及び課題を洗い出し、これらのツールを使用して解決策を提案・もしくはプロモーションを新たなプレゼンテーション形式として実践的に行う。					
学習 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本講義 Day1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術の発展と、デジタルがもたらす産業の変革 三重大学 三橋氏</li> <li>・CeMDS の案内と説明 三重大学 若林氏</li> <li>・各ソフトウェアの説明</li> </ul> </li> <li>●本講義 Day2 ハードウェア #3D プリンター #ドローン #VR #メタバース <ul style="list-style-type: none"> <li>・3D プリンターを用いたモノづくりと立体造形物の試作</li> <li>・ドローンにおける技術と産業への応用事例について</li> <li>・現実社会とデジタル社会の境界線をなくす VR・AR 技術</li> <li>・グループワークと立体造形物の確認</li> </ul> </li> <li>●本講義 Day3 ソフトウェア #動画編集 #アバター #CG #VFX <ul style="list-style-type: none"> <li>・adobe 製品のソフトウェアについて</li> <li>・3D グラフィックの制作</li> <li>・アバター制作</li> <li>・動画編集</li> </ul> </li> <li>●本講義 Day4 三重県の産業への応用と実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県内の伝統産業と次世代産業について 四日市市文化まちづくり財団 西浦氏</li> <li>・グループワーク</li> <li>・ハードウェアもしくはソフトウェアの産業への応用実践</li> <li>・グループでの発表と質疑応答</li> </ul> </li> </ul>					
予習内容 復習内容	本講義までに、デジタル技術を利用した技術革新（XR）について 800 字以内でレポート作成し提出する。					
教科書	なし。必要に応じて参考文献を紹介する。					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。</li> <li>・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う講義・グループワーク等に参加する。後期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。</li> </ul>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
医療・健康・福祉実践	石原 洋介	実習	2		2, 3	4
授業概要 授業目的	当授業は三重県の重点課題である医療・健康・福祉に関して、名張市をフィールドとし、現場で学ぶ PBL 型授業である。地域共生型社会で取組を続ける地域住民の健康や QOL について、そのコミュニティに参加することで、医療・健康・福祉に関わる地域内のステークホルダーの取組、及びそれら各領域の横断的取組について理解を深める。医療、福祉、健康を目的とした各種取組みを知ることにより、自治体や地域団体の役割を考察し提案していく機会を設ける。					
到達目標	三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目では、3～4 人のグループワーク及びフィールドワークを通して得た情報から地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについてのデータの統合・深い分析・考察を加え、得られた成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することができる。受講生一人一人が個々で可能な社会貢献を考え実践する主体性を獲得し、異なる立場の間に立って円滑にコミュニケーションが取れる力を身につける。					
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現地学習 Day1 #地域医療と包括ケア 名張市 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンスと名張市の現状 まちの保健室について 名張市 柴垣様</li> <li>・まちの保健室見学とフィールドワーク</li> <li>・名張市立病院での見学と講義 三重大学医学部附属病院 山本先生</li> </ul> </li> <li>●現地学習 Day2 #健康長寿への取組 名張市 <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県の医療・健康・福祉について 鈴鹿医療科学大学 河尻先生</li> <li>・赤目地域の取組について</li> <li>・フィールドワーク</li> <li>・フィールドワークのデータ整理</li> </ul> </li> <li>●現地学習 Day3 #中山間地域の医療 #地域間コミュニティが行う健康づくり 名張市 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域をつなぐ、心の健康とケアができる場所づくり 一般社団法人つなぐ 北森氏</li> <li>・名張市旧市街地見学とフィールドワーク</li> <li>・グループワーク及びフィードバック</li> </ul> </li> <li>●まとめ学習 Day4 グループワーク及び最終発表 三重大学 <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドで得たデータのまとめ、感想のフィードバック</li> <li>・プレゼン資料と原稿作成</li> <li>・発表と質疑応答</li> </ul> </li> </ul> <p>《注意》現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては変更の可能性もある</p>					
予習内容 復習内容	事後レポート及び、最終課題の提出					
教科書	なし					
成績評価	授業への積極的な参加 40%、成果発表 30%、レポート 30%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修希望者にはあらかじめ面談を行う。</li> <li>・本講義は、三重大学と連携して実施する科目であり、履修者は三重大生と共に三重大学が行う現地実習・グループワーク等に参加する。前期集中講義であり日程は決まり次第連絡する。</li> <li>・学生教育研究賠償責任保険に必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある（詳細は後日連絡）。</li> </ul>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法 I	鎌塚 有貴	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>本講義では、憲法における人権分野を扱う。          日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。          憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。</p>					
到達目標	<p>日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に、近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察できるようになること。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス：授業評価、進行について	16	集会の自由：判例			
2	国家とは	17	結社の自由			
3	憲法の成立	18	報道の自由			
4	明治憲法と日本国憲法	19	出版の自由			
5	人権享有主体	20	人身の自由、適正手続			
6	幸福追求権	21	被疑者・被告人の権利			
7	人格権、自己決定権	22	再審・死刑制度			
8	私人間効力：学説	23	学問の自由・大学の自治			
9	私人間効力：判例	24	教育を受ける権利			
10	法の下での平等：学説	25	勤労の義務・権利			
11	法の下での平等：判例	26	職業選択の自由			
12	思想良心の自由	27	財産権			
13	信教の自由：学説	28	婚姻に関する権利：学説			
14	信教の自由：判例	29	婚姻に関する権利：判例			
15	集会の自由：学説	30	まとめ（課題講評など）			
予習内容 復習内容	新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。					
成績評価	期末試験 100%。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法Ⅱ	鎌塚 有貴	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>本講義では、憲法における統治分野を扱う。          日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。          憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。</p>					
到達目標	<p>日本国憲法における統治機構の役割・権能について理解すること。特に、国家と国民の関係や、立憲主義にもとづく統治によって人権保障が実現できるという構造を日常のニュース等と関連付けることができるようになること。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンス：授業評価、進行について					
2	選挙権・選挙制度					
3	国会の権能					
4	国政調査権					
5	行政権・議院内閣制					
6	司法権・裁判所					
7	司法権の独立					
8	違憲審査制：制度					
9	違憲審査制：審査基準					
10	政教分離					
11	財政					
12	地方自治					
13	平和主義					
14	憲法改正					
15	まとめ（講評など）					
予習内容 復習内容	新聞記事やニュースに目を通しておくこと。					
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。					
成績評価	期末試験 100%。					
実務経験	なし					
その他 特記事項	なし					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民法 I	照井 遥瑛	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	民法は、人と人との生活関係（ゲームやパソコンを買う、アパートを借りる等）と身分関係（結婚をする、離婚をする、相続をする等）に関する基本的ルールを定めている法律です。この授業では、民法についての全体像の概説をした上で、民法総則、物権法、担保物権法を取り扱います。初学者でも理解しやすいように、具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や判例・学説を解説します。					
到達目標	①民法総則、物権法、担保物権法の基礎的知識を身に付け、自分なりに説明できる。 ②日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべき民法の条文とそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	ガイダンス、民法の構造		16	時効③：消滅時効		
2	民法の基本原則		17	物権とは、物権の種類		
3	権利能力、意思能力		18	物権的請求権		
4	行為能力、制限行為能力者		19	物権変動、対抗要件、公示の原則、公信の原則		
5	意思表示とは、法律行為とは		20	不動産物権変動①：取消しと登記、時効と登記		
6	意思表示①：心裡留保		21	不動産物権変動②：民法 177 条の「第三者」		
7	意思表示②：虚偽表示		22	動産物権変動：対抗要件、即時取得		
8	意思表示③：錯誤		23	占有権		
9	意思表示④：詐欺・強迫		24	所有権		
10	無効・取消し、強行規定・任意規定、公序良俗		25	地上権、地役権		
11	代理①：代理とは		26	抵当権①：担保物権の性質、物上代位制度ほか		
12	代理②：表見代理		27	抵当権②：抵当権と第三取得者、法定地上権ほか		
13	代理③：無権代理		28	質権、留置権、先取特権		
14	時効①：時効とは、条件・期限		29	譲渡担保		
15	時効②：取得時効		30	まとめ		
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所を目を通すこと。 復習：教科書、自作ノート、授業資料を再確認し、授業内容に対する理解を深めること。					
教科書	生田敏康ほか『民法入門』（法律文化社、第2版、2021年） 最新年度版の小型六法（「ポケット六法」や「デイリー六法」など） 授業ではパワーポイントを用いて解説します。スライド資料は事前にオンライン上で配布します。					
成績評価	出席時に提出するレポート内容（50%）、期末試験（50%）で成績評価を行います。成績評価方法の詳細は初回講義の時に説明します。					
実務経験						
その他 特記事項	小型六法は最新年度版のものを必ず持参してきてください。民法 I は、抽象的な条文を多く扱うため、これから民法を学ぼうとする皆さんにとって最初のハードルとなると思いますが、この講義で修得した知識が今後履修する民法各科目の基礎となりますので、焦らず・諦めずに予習・復習に努めることが肝心です。					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民法Ⅲ	木村 義和	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>「契約」という言葉を一度も耳にしたことがない人は、おそらくいないでしょう。「契約」という言葉を聞くとなんだか堅苦しいイメージを持ってしまいがちですが、「契約」って言葉を誰もが一度は聞いたことがあることから分かるように、実はたいへん私たちの日常生活と密接したものなのです。また、「不法行為」と聞くと何だか難しそうですが、「損害賠償」や「慰謝料」という言葉を聞いたことがない人はいないはず。このように私たちの生活に身近な存在である契約法の基本的なルールを理解することを本講義の目的にします。</p>					
到達目標	<p>契約法と不法行為法の基本的なルールを理解し、基礎知識を修得する。</p>					
回	学習内容					
1	契約の成立					
2	懸賞広告					
3	契約の効力					
4	同時履行の抗弁権					
5	危険負担					
6	契約の解除					
7	贈与					
8	売買					
9	交換・消費貸借					
10	賃貸借					
11	雇用・請負					
12	委任・寄託・組合・終身定期金・和解					
13	不当利得と事務管理					
14	不法行為					
15	まとめと不法行為					
予習内容 復習内容	<p>予習：レジュメを見ながらテキストの該当箇所を読む。 復習：ノートを見ながら授業内容を整理し、理解する。</p>					
教科書	青野 博之、谷本 圭子、久保 宏之、下村 正明 『新プリメール民法4 債権各論』（法律文化社）					
成績評価	<p>各回に行う小テスト60%+試験40%で評価する。 小テストは各回の授業の最後に行う。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
家族法	土志田 佳枝	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>民法典第4編「親族」と第5編「相続」を合わせて家族法と呼ぶ。講義前半では、家族法のうち、前者の親族法（民法725条～881条）を中心に扱う。学習の範囲には民法総則3節「行為能力」（民法4条以下）も含み、成年後見制度（法定後見・任意後見）についても扱う。講義後半では、家族法のうち、後者の相続法（民法882条～1050条）を扱う。</p>					
到達目標	<p>（1）「血族・配偶者・姻族」「直系・傍系」「尊属・卑属」「被相続人」「相続人」といった用語を用いて事実を説明し、正確に引用することができる。（2）婚姻や離婚といった親族法上の問題、遺言や遺留分といった相続法上の問題について、民法の条文を正確に引用して、一定の解決を導くことができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	イントロダクション—家族法とは何か	16	イントロダクション—相続法とは何か			
2	親族法総則—親族・氏名・戸籍	17	相続人・相続分(1)—相続人の範囲と順位、相続分			
3	婚姻(1)—婚姻の要件	18	相続人・相続分(2)—相続欠格・相続人の廃除・相続回復請求権			
4	婚姻(2)—婚姻の一般的効果・夫婦財産制	19	相続財産の範囲(1)—包括承継・相続の対象となる権利義務			
5	離婚(1)—離婚の方法	20	相続財産の範囲(2)—相続の対象とならない権利義務・祭祀財産			
6	離婚(2)—離婚の効果	21	遺産共有・遺産分割(1)—遺産共有			
7	婚姻外の男女関係—婚約・結納・内縁	22	遺産共有・遺産分割(2)—遺産分割			
8	実子(1)—嫡出子・嫡出でない子	23	相続の承認・放棄と財産分離(1)—単純承認・限定承認・放棄			
9	実子(2)—藁の上からの養子・生殖補助医療	24	相続の承認・放棄と財産分離(2)—財産分離			
10	養子(1)—養子制度の概観・普通養子	25	相続人の不存在			
11	養子(2)—特別養子	26	遺言(1)—遺言の原則・遺言能力・遺言の方式			
12	親権(1)—親権の帰属・親権の行使・親権の制限	27	遺言(2)—遺言事項・遺言の解釈・遺言の効力			
13	親権(2)—離婚後の親子・未成年後見	28	遺言(3)—遺言の執行・遺言の撤回・改正相続法と遺言(概要)			
14	後見・扶養	29	遺留分			
15	理解度確認小テスト・解説(親族法総復習)	30	理解度確認小テスト・解説(相続法総復習)			
予習内容 復習内容	予習：教科書の通読(2時間)、復習：レジュメ・教科書・判例の再読(2時間)					
教科書	青竹美佳・羽生香織・水野貴浩『家族法[第4版]』(日本評論社、2023年) 六法(最新版を用意。出版社、判例の有無は問わない)					
成績評価	親族法、相続法それぞれについて理解度確認小テスト(50%)、学期末定期試験(50%)で評価する。					
実務経験	愛知県弁護士会届出事務員として、法律事務所にて弁護士受任の民事・刑事・家事事件手続にかかる事務を行う。					
その他 特記事項	家事事件手続法、人事訴訟法など、近年改正された手続法のみならず、戸籍法についても講義では視野にいれていきたい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
会社法	名島 利喜	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>会社の組織と行動に関する基本的なルールを定めている会社法全般について概説を行う。          会社の多くは株式会社形態を採用しているので、株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。          したがって、株式会社法にほぼ限定しながら、法律制度としての「株式会社」に関する基礎知識を提供することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>①会社法の諸制度の趣旨や内容を的確に理解できる。          ②会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを説明できる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション・会社の起源	16	株式会社の機関構造			
2	会社と会社法	17	株主総会の意義・実態・権限			
3	会社—その実態と法律上の定義	18	株主総会の招集・運営			
4	会社の権利能力とその制限	19	株主総会決議の瑕疵			
5	法人格否認の法理	20	取締役の資格・選任・任期			
6	資本金制度と会社債権者保護	21	取締役会の意義・権限・決議			
7	株式の意義と株主の権利義務	22	代表取締役の意義・権限・解職			
8	株式会社の設立：意義・手続の概要	23	取締役の義務と報酬等			
9	株式会社の設立：法規制	24	取締役の法的責任			
10	株式の譲渡自由の原則（自由譲渡性）	25	株主代表訴訟＝株主による責任の追及			
11	公開会社と株式の公開	26	監査役・監査役会・会計監査人			
12	株式の譲渡制限	27	指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社			
13	自己の株式の取得	28	株式会社の資金調達に関する規律			
14	親子会社関係・株式相互保有	29	組織再編・組織変更			
15	中間テストおよび試験終了後に前半のまとめ	30	総括：コーポレート・ガバナンス			
予習内容 復習内容	<p>予習：予め指示された箇所の条文をゆっくり読んでみること。          復習：講義内容を思い浮かべながら、もう一度ゆっくり条文を読み返すこと。</p>					
教科書	最新版の六法（小型のものでよい）。参考文献は必要に応じて紹介します。					
成績評価	中間テスト 40%、期末試験 60%、合計 100%					
実務経験						
その他 特記事項	日本経済新聞等に目を通したりして、日本の会社経営の実状についても視野を広げてほしい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
商法総則・商行為	楠井 嘉行	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>商法総則・商行為に関する商法の規定と民法の規定との違いや企業取引実務を中心に学習する。商業登記簿や商業帳簿、企業取引に関する各種書式等を用いて平易に解説したい。企業取引実務に関するビデオ等を見て、知識をより深いものにする。</p> <p>商法に規定される商法総則・商行為の内容、民法との違いや各規定が具体的に適用される場面について学習しつつ、企業取引の具体的な実務を学習する。</p>					
到達目標	<p>① 商法総則・商行為に関する基本的知識を修得する。</p> <p>② 企業取引実務に関する知識を深める。</p> <p>③ 社会人となって有用と思われる企業取引実務を身につける。</p>					
回	学習内容					
1	商法とは					
2	商法総則総論					
3	商業登記					
4	商号、商業帳簿					
5	補助者					
6	営業譲渡、商行為法総則①					
7	商行為法総則②					
8	商事売買、交互計算					
9	匿名組合、問屋営業					
10	仲立営業					
11	運送営業					
12	運送取扱営業、倉庫営業、場屋営業					
13	保険法					
14	手形・小切手、電子記録債権					
15	消費者法					
予習内容 復習内容	<p>予習：講義中に紹介する参考書に目を通す。</p> <p>復習：講義資料やノートを読み返す。</p>					
教科書	第11版 現代商法入門 有斐閣 近藤光男（編）					
成績評価	レポートによる評価の予定。単位を心配せず授業をよく聞いて学習されたい。出席30%、レポート課題70%で評価したい。					
実務経験	昭和60年4月三重弁護士会 弁護士登録。三重県信用組合金融整理管財人や金融機関の法律顧問等の経験を生かしてお話しします。					
その他 特記事項	企業取引で使われる書式のほか、実務に関連したビデオもできるだけ多く見て頂く予定ある。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑法	柏崎 早陽子	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	刑法は「犯罪」と「刑罰」について定めた法律です。刑法を特徴づける「刑罰」は、究極的には人の生命を奪うものです。このことから、他の法律と比べても刑法・刑罰は厳しい法律・過酷な制裁であると言われていています。では、「刑罰」はどのような場合に科されるのか？それを知るためには、どのような場合に「犯罪」が成立するかを理解しなければなりません。本講義では「犯罪」の成立に関わる様々な要素について、具体的な事例を用いながら説明します。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の基本原理や基本的な概念を説明することができる。</li> <li>・学説や判例を理解し、説明することができる。</li> <li>・問題をどのように解決に導くか、自分の考えを論理的に説明することができる。</li> </ul>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	刑法（刑事法）の基礎知識	16	正当行為、被害者の同意			
2	刑法の意義と目的	17	有責性－犯罪成立の第3段階－			
3	刑罰の目的、刑罰の種類、謙抑主義	18	責任能力、原因において自由な行為、期待可能性			
4	罪刑法定主義	19	錯誤①：具体的事実の錯誤			
5	罪刑法定主義の派生原理	20	錯誤②：抽象的事実の錯誤			
6	犯罪論の体系	21	錯誤③：違法性の錯誤			
7	構成要件論－犯罪成立のための第1段階－	22	未遂犯・不能犯			
8	因果関係論	23	中止犯			
9	作為および不作為	24	共犯論①：共犯の基礎、教唆犯・幫助犯			
10	故意	25	共犯論②：共同正犯			
11	過失	26	共犯論③：間接正犯			
12	違法性論－犯罪成立のための第2段階－	27	共犯の諸問題①：片面的共犯・承継的共犯			
13	正当防衛	28	共犯の諸問題②：共犯関係からの離脱			
14	過剰防衛	29	罪数論			
15	緊急避難	30	学習内容の総まとめ			
予習内容 復習内容	【予習】教科書や配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。【復習】教科書、配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。					
教科書	教科書として、小島秀夫編『刑法総論－理論と実践』（法律文化社、2022年）を指定する。その他、授業内容に応じて、授業内で適宜紹介する。					
成績評価	①定期試験（60%）＋②小テスト（40%）【評価基準】 i）自分の言葉で、ii）語句等を適切に理解して使用し、iii）問題点を的確に示し、iv）学説や判例の立場を踏まえながら私見を論理的に説明している。以上の i）～iv）の到達度を、上記①・②において総合的に判断して成績評価を行う。					
実務経験						
その他 特記事項	「刑事政策」も受講することが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政法	古畑 淳	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>私たちの生活は行政と密接にかかわっている。子どもや高齢者が安心して生活できるように、また、地域で暮らす私たちがよりよい環境で安心して生活できるように、行政は様々な活動を行っている。行政法はそうした行政の活動についてのルールと、行政の活動により市民の権利等が侵害された場合は是正と賠償のルールなどを定めた法である。</p> <p>授業では、身近な生活問題に即して、私たちと行政との関わり、行政の様々な活動の形式、行政の活動の是正を求める手段、そして、違法な行政活動により生じた損害についてその賠償を求める仕組みなどを学ぶ。</p>					
到達目標	<p>1) 法律による行政の原理と行政上の一般原則について理解できる。</p> <p>2) 行政の様々な活動の形式と活動の統制の仕組みについて理解できる。</p> <p>3) 行政の活動の是正を求める手段と違法な行政活動により生じた損害の賠償を求める仕組み、また損失補償の仕組みを理解できる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	行政法への招待	16	行政事件訴訟を学ぶ① 行政事件訴訟の全体像			
2	行政組織について学ぶ	17	行政事件訴訟を学ぶ② 取消訴訟の対象			
3	法律による行政の原理を学ぶ	18	行政事件訴訟を学ぶ③ 取消訴訟の原告適格と訴えの利益			
4	行政上の一般原則を学ぶ① 平等原則、比例原則、信頼保護原則等	19	行政事件訴訟を学ぶ④ 取消訴訟の審理と判決			
5	行政上の一般原則を学ぶ② 透明性原則 説明責任原則	20	行政事件訴訟を学ぶ⑤ 取消訴訟における仮の救済			
6	行政行為（行政処分）を学ぶ① 行政行為の意義、種類	21	行政事件訴訟を学ぶ⑥ 取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）			
7	行政行為（行政処分）を学ぶ② 行政行為の効力、職権による取消しと撤回	22	行政事件訴訟を学ぶ⑦ 抗告訴訟以外の行政事件訴訟（当事者訴訟等）			
8	行政手続を学ぶ① 申請に対する処分手続	23	行政上の不服申立てを学ぶ① 不服審査の仕組みと組織			
9	行政手続を学ぶ② 不利益処分の手続、手続的瑕疵の効果	24	行政上の不服申立てを学ぶ② 不服申立ての審理と裁決			
10	行政基準を学ぶ	25	行政上の不服申立てを学ぶ③ 行政不服審査会の答申を読む			
11	行政計画を学ぶ	26	国家賠償を学ぶ① 公権力の行使に関する賠償			
12	行政指導を学ぶ	27	国家賠償を学ぶ② 行政の危険防止責任			
13	事実行為を学ぶ	28	国家賠償を学ぶ③ 営造物の瑕疵に関する賠償			
14	行政上の義務の実効性確保を学ぶ	29	損失補償を学ぶ			
15	情報公開法を学ぶ	30	まとめ			
予習内容 復習内容	<p>教科書（該当箇所を指示する）を一読する。</p> <p>担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。</p>					
教科書	<p>大橋洋一『社会とつながる行政法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021年、1,980円）を使用する。</p> <p>※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。教科書は事前事後の学習において使用します。また、授業を進める中で適宜、参照いたします。</p>					
成績評価	<p>授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30%）と定期試験の結果（70%）の合計で評価します。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。</p> <p>行政の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
労働法	西川 昇吾	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>本講義では、労働法、とりわけ、その中心部分を占める雇用関係法（使用者と労働者の関係を規律する法領域）および労使関係法（労働組合と使用者の関係を規律する法領域）の基礎的事項や重要判例を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等も用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。</p> <p>それにより、労働法における正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤として、結論のみではなく、そこに至る過程も段階的に説明しうる力を養うことが、本講義の目的である。</p>					
到達目標	<p>① 労働法の各論点における法的意義・要件・効果等を把握する。</p> <p>② 労働法上の概念や論理等を言葉で表現し、他者へ説得的に説明しうる。</p> <p>③ 労働法の争点においては、複数の結論が並存しうることを許容できる。</p>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	ガイダンス／労働基準法の意義・目的		16	労働時間		
2	労働基準法等の適用対象		17	休憩／休日／変形労働時間制等		
3	均等待遇／雇用における男女平等		18	時間外労働／休日労働		
4	強制労働禁止／中間搾取排除／公民権行使保障		19	年次有給休暇		
5	労働契約の意義・期間		20	就業規則		
6	更新拒否（雇止め）からの保護／採用内定		21	懲戒処分		
7	試用期間／配転／出向		22	妊産婦等の保護／労災補償		
8	転籍／労働者派遣		23	労働組合の法的規制		
9	昇格／降格		24	労働組合の内部問題		
10	解雇		25	不当労働行為		
11	定年／退職／解散等		26	団体交渉		
12	労働契約上の権利・義務／就労請求権／業務命令		27	労働協約		
13	休職／競業禁止義務／秘密保持義務等		28	争議行為		
14	賃金の法的保護／休業と賃金		29	使用者の争議行為		
15	退職金／賞与／賃金カット		30	組合活動		
予習内容 復習内容	<p>受講生みずからが、配布されたレジュメを事前に一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。</p>					
教科書	<p>教科書は指定せず、上記のとおり、レジュメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。</p>					
成績評価	<p>平常点 30%（各回のリアクションペーパー提出 1点×30）、試験 70%（五肢選択問題 10点・空欄補充問題 20点・論述問題 40点）により評価する（ただし、3分の2以上の出席を要する）。</p>					
実務経験						
その他 特記事項	<p>受講に際しては、知識や論理等をインプットするだけでなく、それらを言葉や文章でアウトプットできるよう意識してほしい。また、レジュメ等に目を通して、企業の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民事訴訟法	塚本 順久	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	民事訴訟法は、民事訴訟に関する手続についての基本法です（第1条）。民事訴訟手続は、個人間の法的な紛争（主に財産権に関する紛争）を、裁判官が当事者双方の言い分を聞き、証拠を調べた後に、判決をすることによって解決を図る手続です。本講義では、主に、民事訴訟法が定める第一審手続（訴え提起から判決確定まで）の概要について説明します。					
到達目標	民事訴訟法の条文を読み解く。 民事訴訟手続の全体の流れを理解する。 民事訴訟法における原理原則、基本概念を理解する。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス、民事訴訟（民事裁判）の基本構造	16	証明責任：証明責任の分配、推定			
2	民事訴訟の基本原則、民事訴訟法の構造	17	証拠調べ1 総論：書証・証人尋問・当事者尋問・鑑定・検証			
3	訴訟の開始	18	証拠調べ2 各論：文書提出命令、証拠保全			
4	訴え提起の効果	19	口頭弁論における当事者の訴訟行為			
5	裁判所と管轄	20	判決以外の訴訟終了原因			
6	当事者1：形式的当事者概念	21	裁判と判決：裁判の種類、判決の効力			
7	当事者2：当事者能力と訴訟能力、訴訟代理	22	既判力1：既判力の客観的範囲			
8	訴訟物：訴訟物概念とその機能	23	既判力2：既判力の主観的範囲			
9	訴訟要件1：訴訟要件、訴えの利益	24	一部請求と既判力、訴訟上の相殺			
10	訴訟要件2：当事者適格、第三者の訴訟担当	25	判決効に関する論点			
11	裁判所と当事者の役割分担、口頭弁論	26	複数請求			
12	弁論主義1：弁論主義の3原則、釈明	27	複数当事者訴訟1：通常共同訴訟、必要的共同訴訟			
13	弁論主義2：裁判上の自白	28	複数当事者訴訟2：訴訟参加・訴訟承継			
14	審理の充実と訴訟促進	29	上訴・再審			
15	証拠と証明：証明とは、自由心証主義、証拠能力	30	まとめ：第一審手続の復習			
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所及び該当する民事訴訟法の条文を読む。 復習：条文と教科書を読み直し、教科書の事例を再検討する。					
教科書	越山和広『ベーシックスタディ民事訴訟法 [第2版]』（法律文化社、2023年）、六法					
成績評価	定期試験 70%、授業における発言など積極的に取り組む姿勢 30%					
実務経験	講師は、三重弁護士会に所属する弁護士です。実務経験をもとに、実際の民事裁判の手続に即して民事訴訟法の条文と基本的な概念が理解できるようお話しします。					
その他 特記事項						



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑事訴訟法	加藤 拓也	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	刑事手続の流れ、登場人物とそれぞれの立場、刑事手続における法的論点とその解釈論、実務上の運用状況と判例の動向等について、日頃刑事手続に関与している弁護士が具体的な事件や実務経験等に即して解説します。基本的には講義形式ですが、受講者の発言や意見を求めることもあります。					
到達目標	受講者において、具体的な刑事事件について法律的な観点から問題点を発見し、論理的に考察できるようになること。また、一主権者として、刑事手続や社会のあり方を考えることができるようになること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	刑事訴訟法の概要と授業計画	16	刑事裁判の概略			
2	刑事事件に関わる人とその役割	17	刑事裁判の基本原則			
3	ビデオ視聴と解説 1 (捜査)	18	刑事裁判の審判対象			
4	ビデオ視聴と解説 2 (被告人の立場)	19	証拠物・科学的証拠の証拠能力			
5	ビデオ視聴と解説 3 (公判)	20	自白の取扱い			
6	強制捜査と任意捜査	21	供述調書の取扱い			
7	捜査の始まり	22	違法に収集された証拠			
8	証拠物を収集する捜査	23	適正な事実認定			
9	新しい捜査方法	24	模擬裁判			
10	被疑者の身体拘束	25	判決・上訴・再審			
11	被疑者の取調べ	26	裁判員裁判			
12	被疑者の防御権	27	少年法			
13	捜査の終結	28	犯罪被害者保護			
14	捜査弁護の実務	29	有罪判決後の処遇と更生			
15	捜査法の総括	30	あるべき刑事手続のあり方			
予習内容 復習内容	予習：授業中に次回授業で触れる判例等を紹介することがあるので、その内容を確認して下さい。 復習：上記レジュメの内容とそこで示された判例等を再度確認して下さい。					
教科書	教科書は特に指定しません。参考文献は必要に応じてご紹介します。 なお、判例は、最高裁のホームページでも閲覧できます。					
成績評価	出席点（不定期に実施する小テスト・レポートを含む。）50%、定期試験（年2回）50%。 毎回出欠をとり、3分の1を超えて（11回以上）欠席があった場合には成績評価の対象外とします。 積極的な発言、良い質問については、出席点のうち10%の範囲内で加点します（但し出席点の上限は50%です。）。					
実務経験	講師は、三重弁護士会所属の弁護士です。刑事事件は今までに130件以上担当し、裁判員裁判や被害者参加の経験も複数あります。その中で得られた実務経験等も踏まえながら、刑事手続について具体的かつ分かりやすくお話しします。肩肘張らずに参加して下さい。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑事政策	柏崎 早陽子	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>刑事政策は、犯罪を防止するための施策を考える学問です。もっとも、犯罪をいかに防止するかを考えるためには、その前提として実社会における犯罪の情勢を把握する必要があります。また、犯罪が生じた原因を探ることも犯罪防止に役立ちます。そこで、本講義では最初に、日本における犯罪の現状を知ること、犯罪の原因を突き止めることから始めます。そのうえで、現行制度の他、同性婚や拘禁刑などの時事問題に言及しながら、刑事政策に関する現実の社会課題に向き合います。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刑事政策に関する基本的な概念等を説明することができる。</li> <li>・ 刑事政策に関する実社会の動向（法改正や法制度等）を踏まえて自己の意見を形成することができる。</li> </ul>					
回	学習内容					
1	刑事政策とは：授業の進め方、刑事政策に関する基礎知識					
2	犯罪現象論：日本における犯罪の情勢—どのような犯罪がもっとも多いか？					
3	犯罪原因論①：初期の犯罪原因論～ラベリング論の台頭まで					
4	犯罪原因論②：ラベリング論の台頭～合理的選択理論・状況的犯罪予防論					
5	犯罪化と非犯罪化：同性婚をベースに犯罪化と非犯罪化について考える					
6	裁判員制度					
7	刑罰①死刑：死刑執行と死刑執行までの流れ、死刑囚と拘置所					
8	刑罰②死刑制度の存廃：死刑存廃と終身刑					
9	刑罰③自由刑：懲役刑・禁錮刑と拘禁刑					
10	保安処分					
11	司法的処遇：ダイバージョン、微罪処分、起訴猶予等					
12	施設内処遇：受刑者と刑事収容施設					
13	社会内処遇：仮釈放、保護観察等					
14	少年法改正と少年非行					
15	学習内容の総まとめ					
予習内容 復習内容	<p>【予習】 配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。 【復習】 配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。</p>					
教科書	教科書は指定しないが、配付する資料に事前に目を通すこと。その他、授業内で適宜紹介する。					
成績評価	①定期試験（60％）＋②小テスト・レポート（40％）【評価基準】 i）自分の言葉で、ii）語句等を適切に理解して使用し、iii）問題点を的確に示し、iv）学説や判例の立場を踏まえながら私見を論理的に説明している。以上の i）～iv）の到達度を、上記①・②において総合的に判断して成績評価をおこなう。					
実務経験						
その他 特記事項	「刑法」も受講することが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法哲学	小林 和之	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	「正しさ」(正義)の可能性について考えること。抽象論ではなく、実際に起った事件に即して考察を進めます。					
到達目標	具体的な事件に即して「正しさ」について考える力を伸ばすこと。多様なものの見方に触れ、新しい観点を獲得すること。					
回	学習内容					
1	授業の進め方、法哲学の学問的性格					
2	名前のルール					
3	氏名法制の変遷と夫婦別氏問題					
4	過失責任原理の登場と変容					
5	企業と人命を犠牲にする選択					
6	社会と人命を犠牲にする法					
7	人命の犠牲の正当化					
8	公共の利益と組織の論理					
9	内部告発と正義 (1)					
10	内部告発と正義 (2)					
11	新時代の責任原理 (1)					
12	新時代の責任原理 (2)					
13	事実と社会 (1)					
14	事実と社会 (2)					
15	メタ価値					
予習内容 復習内容	予習：ニュースを見るよう心がける。 復習：講義で知ったことを他者に説明できるようにまとめる。					
教科書	なし					
成績評価	筆記試験と毎回の課題との総合評価 (100%)					
実務経験						
その他 特記事項	受講者の理解が不十分だと判断した場合は、先に進めずに補足を行います。よって、上記は変更の可能性がります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
税法	木村 幹雄	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	日本をはじめ多くの国々は、税がなくては国家として成り立ちません。わが国の税の仕組みを理解するとともに、どのような根拠で課税されているのかを考えていく。そして社会に必要な最低限の税の知識を身につけることを目的とする。					
到達目標	税法に関する基本的な理論と考え方が理解できる。					
回	学習内容					
1	概論（税の考え方・税法の学び方）					
2	税・財政の基礎知識と税金の専門職					
3	納税義務と租税法律主義					
4	租税法の基本原則					
5	法人税法（1） 計算構造					
6	法人税法（2） 特段の定め					
7	消費税法（1） 消費税の基本的仕組み					
8	消費税法（2） 各種特例と届出書					
9	相続税法（1） 民法と相続税					
10	相続税法（2） 相続税と贈与税					
11	所得税法（1） 所得税の基本的仕組み					
12	所得税法（2） 各種所得					
13	所得税法（3） 所得計算					
14	所得税法（4） 所得控除と税額控除					
15	納税者救済（税務争訟手続き）					
予習内容 復習内容	予習：テキストの講義予定箇所を事前に読んでおくこと。 復習：講義での不明点を復習し理解を深めること。					
教科書	石村耕治編『現代税法入門塾（第12版）』（清文社、2024年）。					
成績評価	定期試験（70%）、平常点（小テストなど）（30%）の比重で評価する。					
実務経験	名古屋税理士会に所属する税理士であり、税法に関する理論だけではなく、実務経験を踏まえた講義をしていきたい。					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
消費者法	大北 由恵	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>私たちは日常的に事業者から商品やサービスを購入し、それらを消費して生活している消費者です。消費者と販売のプロである事業者との間には情報力や交渉力等の面で大きな格差が存在しているため、不利な立場に置かれている消費者の利益を保護するための一連の法律を消費者法と呼びます。</p> <p>この講義では、消費者被害の実態を事例とともに紹介し、被害者を救済するための法制度の基礎知識を修得していきます。</p>					
到達目標	<p>①消費者問題の基本構造を理解することができる。</p> <p>②消費者被害にあわないための対策や被害にあった場合の対処法を身に付けることができる。</p> <p>③被害者救済のための法制度を理解し、解決策を検討することができる。</p>					
回	学習内容					
1	ガイダンスー消費者法とは					
2	消費者問題の全体像					
3	消費者契約法①消費者契約法の概要、取消権					
4	消費者契約法②不当条項規制					
5	特定商取引法①特定商取引法の概要					
6	特定商取引法②訪問販売、クーリング・オフ、電話勧誘					
7	特定商取引法③通信販売、マルチ商法、ネズミ講					
8	特定商取引法④継続的役務提供					
9	景品表示法					
10	製造物責任法					
11	消費者信用取引①消費者信用取引の概要、クレジット取引					
12	消費者信用取引②割賦販売法（割賦販売法の概要）					
13	消費者信用取引③割賦販売法（割賦販売法の規制内容）					
14	消費者信用取引④貸金規制					
15	全体のまとめー現代社会における消費者法の課題					
予習内容 復習内容	<p>予習：参考文献に目を通しておいてください。</p> <p>復習：レジュメや講義メモを中心に授業内容を整理・理解してください。</p>					
教科書	<p>教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を進めます。</p> <p>参考文献は初回の授業で案内します。</p>					
成績評価	最終試験(70%)と授業内レポート(30%)で総合的に評価します。					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治学原論	野口 侑太郎	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、戦後日本政治を主な事例として取り上げたいので、政治学に関する基本的な理論や概念、そして基本的な事実に対する理解を深めることを目標にします。戦後日本政治は、現代日本の政治を基礎付ける最も重要な営みであり、政治学の知見を参照することで、その全体像の把握に努めます。なお、本講義は通年で行います。					
到達目標	本講義の到達目標は、次の通りです。 1. 政治学に関する基本的知識を獲得することができる。 2. 政治学に関する知識に基づきながら、戦後日本政治への説明や分析を行うことができる。 3. 書評レポートの取り組み方——要約や考察の仕方、文献リストの作成方法など——を習得する。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	はじめに	16	はじめに			
2	政治制度とその主体①：政治の主体	17	政治制度とその主体③：「政治改革」の位置づけ			
3	政治制度とその主体②：政治の制度	18	官僚制①：議院内閣制における官僚制、近代日本における官僚制			
4	政治の捉え方①：集合行為問題とその解決	19	官僚制②：行政組織制度、公務員制度			
5	政治の捉え方②：政治の擁護	20	官僚制③：戦後日本における官僚制			
6	書評レポートの概要と解説	21	書評レポートの概要と解説			
7	自由民主主義①：自由主義	22	選挙制度①：選挙制度と政党システム			
8	自由民主主義②：民主主義	23	選挙制度②：選挙制度と政党組織			
9	自由民主主義③：自由民主主義	24	選挙制度③：選挙制度と政策形成			
10	書評レポートの概要と解説	25	書評レポートの概要と解説			
11	福祉国家①：福祉国家概論	26	国会①：国会の仕組み			
12	福祉国家②：戦後政治経済体制の成立	27	国会②：戦後日本における国会と政策形成			
13	福祉国家③：戦後政治経済体制の変容	28	地方政治①：地方政府における政治制度			
14	福祉国家④：戦後政治経済体制からの模索	29	地方政治②：中央地方関係			
15	おわりに	30	おわりに			
予習内容 復習内容	予習と復習：書評レポートを5回課すので、その提出に備えることが求められます。					
教科書	教科書の指定はありません。参考文献は必要に応じて紹介します。					
成績評価	本学の規程に従って、60点以上を合格とし、総合評価によって判定します。 なお、総合評価の内訳は、書評レポート50点、定期試験50点です。					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講に当たって特別な制限は設けませんが、意欲的な受講態度が期待されます。</li> <li>・遅刻や早退、途中退出等は、周りの受講者に迷惑になりますので、お控えください。</li> <li>・講義中の写真撮影や動画撮影、録音等は厳禁です。また、講義資料等をインターネットにアップロードすることも一切認めません。</li> </ul>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政学	川上 哲	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>本講義では行政学の主要な理論と日本の行政の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけではなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。</p> <p>本講義の目的は受講生が行政の理論や制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。</p>					
到達目標	<p>①行政学の主要な理論を理解する。  ②行政制度や公務員制度の基本的な仕組みについて理解する。  ③政策立案の理論や政策過程について理解する。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	導入と講義概要及び評価方法－行政学とは何か	16	国家公務員の任用 入口選抜制度			
2	行政学の歴史とその背景	17	国家公務員の昇任 キャリアとノンキャリア			
3	行政学の発展－アメリカ行政学	18	国家公務員の退職 天下りとグレーゾーン組織			
4	組織論① 古典的組織論	19	行政改革① NPMとガバナンス			
5	組織論② 現代組織論	20	行政改革② 日本の行政改革			
6	官僚制論① 近代官僚制と官僚制の逆機能	21	政策過程論① 政策過程とは何か			
7	官僚制論② 官僚制の演繹的モデル	22	政策過程論② 政策過程の理論			
8	官僚制論③ 官僚制の機能的モデル	23	政策過程論③ 政策評価と評価指標			
9	大統領制と議員内閣制① アメリカの大統領制	24	E B P M (根拠に基づいた政策形成)			
10	大統領制と議院内閣制② イギリスの議院内閣制	25	E B P Mの問題点と課題			
11	大統領制と議院内閣制③ 日本の議院内閣制	26	予算の編成過程と決算			
12	日本の行政組織① 内閣の補佐機関	27	法案の形成過程			
13	日本の行政組織② 中央省庁の組織	28	行政責任			
14	日本の行政組織③ 中央省庁の編制	29	行政統制			
15	日本の公務員制度	30	講義のまとめ			
予習内容 復習内容	<p>初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。  2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。</p>					
教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。					
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	<p>受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。  正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。</p>					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方政治論	岡田 一郎	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	福祉国家の時代のケインズ主義、ポスト福祉国家の時期の新自由主義。国の政治経済運営の基本方向が転換したのに応じ、自治体の制度も変遷しています。その一環で地方分権改革が行われました。しかし地方財政、住民参加など課題も残されています。このような状況の下、自治体の統治機構、住民、地域の各種団体が連携する動きが広がっています。これをローカルガバナンスという切り口で学んでいきます。					
到達目標	(1) 二元代表制、代議制民主主義について説明できる。 (2) ポスト福祉国家の時代に自治体、地域社会がどのような変化を受けたか理解できる。 (3) ローカルガバナンスの意味を説明できる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション：地方政治論の対象と方法。学習の進め方（資料の探し方、ノートの取り方）					
2	統治構造：国と地方との関係、二元代表制					
3	第2次大戦後の経済と国家：福祉国家、新自由主義					
4	労働、社会保障分野における地方自治体の役割					
5	地方分権改革の経過					
6	大都市圏におけるガバナンスの難しさ					
7	産業振興におけるデモクラシーの役割					
8	広域行政：一層の合併か合併なしの連携か					
9	コミュニティー活動：過疎地域の地域振興を題材に					
10	住民投票：賛否表明から対案提示へ					
11	中央地方関係の変化：法律と条令をめぐる変遷					
12	ローカルガバナンス：思想史的考察					
13	資本蓄積と都市政治：アメリカ発の生活賃金運動を題材に					
14	まとめ：基本用語の再確認、今後の学習の手引き					
15	討論会：講義内容を踏まえて身の回りの事例について討論					
予習内容 復習内容	予習：授業の前に予定の章に目を通す。疑問点があればノートのメモしておく。 復習：ノートを整理する。予習のさいの疑問が解決したか考える。					
教科書	石田徹、伊藤恭彦、上田道明編『ローカルガバナンスとデモクラシー』（法律文化社、2016年）					
成績評価	授業ごとに提出するレポート40%、期末レポート60%					
実務経験						
その他 特記事項	政治というと国民国家のあるべき姿や方向について語るものだという印象をおもちの方が多いかもしれません。この講義では、それとは別の視座を提示していく予定です。地域、つまり人々が日々往来、交流する地理的な広がりの中で、政治がどういう役割も担うかを考えていきます。					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉論	宮川 一夫	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の総人口が減少する中、少子化が進むとともに、急速に高齢化が進んでいる。このような状況の中、保健福祉サービスのニーズの増大、社会福祉の担い手の減少、社会保障関係費の増嵩など著しく変化していく社会情勢を知り理解することは生活するうえで大変重要である。</li> <li>以下の計画で進めていくが、講師自身が、三重県職員として実際の社会福祉行財政現場においてやってきたこと、経験してきたこと、どのように社会環境の変化に対応してきたかということ等を話すとともに、ゲストスピーカーにも来てもらう等分かりやすい講義にしたい。</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>この社会福祉の基礎となる考え方や法制度、財政等の仕組みを知っておくことにより、今後の社会環境の変化に的確に順応していけるようになることを目標にする。</li> </ul>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション ～ 世の中には色々な人がいる					
2	社会福祉の概念とその変遷 ～ 福祉と社会福祉、幸せと幸せな社会、個人の尊厳が保持される社会					
3	ユニバーサルデザインのまちづくり ～ すべての人が自由に暮らせるまちづくり					
4	社会福祉制度の展開 ～ 戦後復興・超高齢社会への対応					
5	財政の基礎講座 ～ 金持ちの市町・そうでない市町					
6	福祉財政の動向 ～ 福祉を進めるためのお金					
7	福祉行政の構造 ～ 福祉サービスは身近なところで提供する					
8	社会福祉基礎構造改革 ～ その人らしく暮らせるようにするための改革					
9	福祉援助の実施・提供機関 ～ 児童相談所はこんなところ					
10	続・福祉の実施・提供機関 ～ 社会福祉協議会は民間					
11	福祉計画の目的と意義 ～ 目標を持って展開する					
12	高齢者福祉と老人福祉計画・介護保険事業計画 ～ 2025年					
13	障害福祉と障害者計画・障害福祉計画 ～ 私たち抜きで決めないで					
14	児童福祉と次世代育成支援行動計画 ～ 子どもは社会の宝					
15	母子父子寡婦福祉とDV防止法 ～ デートDV知ってますか					
予習内容 復習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業は、講師作成のレジュメにより進める。予習は学習内容から自分なりの考察を行うこと。</li> <li>復習は授業で配付された資料から自分なりの考えを持つこと。</li> </ul>					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献等は、下記の行政組織のホームページのほか、授業において別途紹介する。</li> </ul>					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート（40%）及び出席回数（60%）として評価する。</li> <li>10回以上授業に出席しないと評価の対象外とする。</li> </ul>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論 I	小野寺 一成	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう、活性化の手法やあり方などを理解することが、本講義の目的となる。 本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、三重県及び県内市町村などの具体例をあげながら講義する。					
到達目標	我が国、特に地方都市において、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン					
2	社会資本の歴史とその役割					
3	社会資本を取り巻く社会の状況					
4	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー					
5	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー					
6	社会資本に関する国土交通行政の方向					
7	観光立国と美しい国づくり					
8	講義前半のまとめと中間試験					
9	東日本大震災からの復興に向けた取り組み					
10	美しく良好な環境の保全と創造					
11	安全・安心社会					
12	競争力のある社会					
13	心地よい生活空間づくり					
14	地域活性化の推進					
15	全講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。					
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。					
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。					
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。					
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6判)を予定。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論Ⅱ	南 有哲	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こすのであって、その実情と背景について認識することが本講義の目的である。					
到達目標	「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について理解を深めていくことを目標とする。					
回	学習内容					
1	はじめに—生物多様性とは何か					
2	生態系サービスとその重要性について					
3	獣害問題について—現状の概観、特に三重県について					
4	獣害問題について—背景と対策					
5	林業を考える—日本林業の現状					
6	林業を考える—生物多様性保全における林業の役割					
7	外来生物問題—現状の概観					
8	外来生物問題について—政府の政策と求められる対策					
9	土壌の問題について					
10	農業とは何か—農業の本質について					
11	農業の多面的機能と生物多様性					
12	日本の食料政策と食料自給率					
13	工業的農業＝資源・エネルギー多投型農業の光と影					
14	水産資源の乱獲問題について—世界的動向の概観					
15	水産資源の乱獲問題について—日本における現状と課題					
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、事前学習を行う。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。					
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジюмеや図表など資料を配布する。					
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%					
実務経験	なし					
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境政策論	南 有哲	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	21 世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。					
到達目標	「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。					
回	学習内容					
1	はじめに—「人新世」としての現代					
2	自然と人間の関係について					
3	環境問題の一般的構図					
4	環境破壊の人類史—先史時代から中世まで					
5	工業化について					
6	市場経済と共同体					
7	市場経済の必然的所産としての環境問題					
8	市場経済と国家——環境政策の必然性					
9	南北問題の史的背景—新大陸征服・奴隷貿易・植民地支配					
10	南北問題の現状と環境破壊					
11	気候政策の国際的展開—気候変動枠組条約と京都議定書					
12	気候政策の国際的展開—パリ協定とそれ以降					
13	日本における気候政策の展開——旧自公政権期から民主党政権まで					
14	日本における気候政策の展開——新自公政権期以降					
15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために					
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。 復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。					
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する					
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%					
実務経験	なし					
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学	熊澤 大輔	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	産業連関表を用いた経済波及効果の計算方法を学びます。産業連関表は社会全体の投入-産出関係を表したもので、様々な経済分析に応用することができます。本講義では、投下労働量（雇用の波及効果）に着目することで、たとえば、少子高齢化が進む中で十分な医療・介護を受けるためにはどれだけの労働人数が必要かといった問いに対して、具体的な計算方法があることを紹介します。授業では簡単な数値計算から始まり、後半には Excel を用いて簡単な投下労働量計算を行う予定です。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業連関表の読み方を覚える。</li> <li>・産業連関表を用いて経済波及効果や投下労働量が計算できるようになる。</li> <li>・Excel で投下労働量を計算してみる。</li> </ul>					
回	学習内容					
1	イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済波及効果とは？）					
2	産業連関表の読み方①（取引基本表、投入係数表）					
3	産業連関表の読み方②（逆行列係数表、雇用表、経済波及効果）					
4	2部門モデルにおける波及効果の計算方法（財・サービスの波及効果、投下労働量）					
5	練習問題①（コーンと油、取引基本表、投入係数表、逆行列係数表、投下労働量）					
6	財と労働の配分（コメと酒、労働配分、純生産の取り換え比率、日本の労働配分）					
7	代数を用いた1部門モデル（必要労働、剰余労働、労働の搾取、マルクスの基本定理の図解）					
8	代数を用いた2部門モデル①（取引基本表、逆行列係数表、投下労働量、労働配分）					
9	2部門モデルにおける分配の計算方法（剰余生産物、必要労働、剰余労働、搾取率）					
10	練習問題②（純生産物の配分、投下労働量単位の取引基本表）					
11	現代の諸課題について労働配分から考える					
12	中間レポート（授業内に問題を解いて提出、授業資料は自由に閲覧可）					
13	Excel を用いた波及効果の計算方法①解説編					
14	Excel を用いた波及交換の計算方法②操作編					
15	産業連関分析で出来ること					
予習内容 復習内容	毎回の授業内容及び練習問題が解けるよう復習すること。					
教科書	毎回パワーポイントを配布する。					
成績評価	中間レポート(50%) 期末レポート(Excel を用いた課題)(50%)					
実務経験						
その他 特記事項	レジュメの配布や出欠管理、レポートの提出などすべて Google の Classroom を用いて行います。Excel の基本操作ができることを前提に 13 回及び 14 回の授業は行われますので注意して下さい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済原論	田添 篤史	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>現在主流の経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるマイクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。</p> <p>本講義では前半でマイクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。</p>					
到達目標	<p>① マイクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解し説明できるようになる。</p> <p>② 実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーションー経済学の考え方	16	完全競争市場における余剰分析			
2	国民経済計算	17	市場の状態が資源配分に与える影響			
3	マイクロ経済学の基本像	18	マクロ経済学の考え方			
4	消費者の理論を導くための準備	19	財の総供給			
5	限界効用理論	20	消費の決定と財の需要量			
6	無差別曲線に関して	21	財市場の均衡			
7	予算線概念と最適消費点の決定方法	22	債権の価格と利子率			
8	所得変化と、それに対応する最適消費点の変化	23	貨幣を需要する動機			
9	代替効果と所得効果	24	貨幣市場の均衡			
10	生産における短期と長期の違い	25	投資の理論			
11	平均費用と限界費用についての理解	26	IS 曲線の導出			
12	利潤最大化と生産量の決定	27	LM 曲線の導出			
13	損益分岐点と操業停止点	28	財政政策の効果			
14	独占企業の生産量決定	29	金融政策の効果			
15	市場均衡とその安定性	30	経済成長の源泉			
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書の該当部分に目を通しておくこと。</p> <p>復習：配布資料および講義ノートに目を通すこと。</p>					
教科書	<p>石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾 1 マクロ編』</p> <p>石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾 2 ミクロ編』</p>					
成績評価	<p>毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30%</p> <p>試験:70%</p>					
実務経験						
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済史	千枝 大志	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>本科目では、経済史的視点から日本の歴史の変遷過程を概観した上で、現代社会の構造を俯瞰できるようになることを目的とする。具体的には、旧石器時代から令和の時代まで、とりわけ7世紀から21世紀初頭までの経済史を概説していく。その際、三重県を含む東海地方を地域経済史の事例対象地として捉え、それを適宜取り上げていく予定である。それは東海地方の経済史には日本全体に影響を及ぼす史的特質が認められ、また、そのような特質は現代まで連続と繋がる東海地方の社会経済面での史的土壌の形成にも深く結びついていると考えるからである。</p>					
到達目標	<p>経済の視点からみた日本が歩んだ歴史に関する基本的知識を習得し、その史的潮流を理解することができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	授業を始めるにあたって	16	開港と日本経済の近代化			
2	経済史的視点からみた古代以前の日本	17	明治政府の殖産興業政策と民間企業			
3	貨幣と文字からみた古代の日本経済	18	近代産業の勃興			
4	荘園公領制と中世前期の日本経済	19	鉄道業の発展			
5	中世の貨幣と信用	20	「明治啓蒙」の思想			
6	中世経済の構造変化	21	近代における企業家の動向			
7	大名領国制と中世後期の日本経済	22	日清・日露戦争と日本経済			
8	近世経済の成立	23	第一次世界大戦と日本経済			
9	近世前期から中期の貨幣と信用	24	世界恐慌と関東大震災			
10	近世前期の経済動向	25	アジア・太平洋戦争と日本経済			
11	近世経済の成熟	26	日本の敗戦と戦後復興			
12	近世経済の構造変化	27	日本の高度経済成長			
13	近世後期から末期の貨幣と信用	28	経済大国への道と貿易摩擦			
14	近世経済の終焉	29	バブル経済とその後の日本経済			
15	前近代における日本経済（まとめと確認）	30	近・現代における日本経済（まとめと確認）			
予習内容 復習内容	<p>予習：授業中に紹介する参考文献等を通読することなど。 復習：配布資料やノートの整理を行なうことなど。</p>					
教科書						
成績評価	<p>評価は、中間試験（35%）、定期試験（35%）、出席時に提出するレポート内容（複数回）及び積極的な修学姿勢（30%）の合計で行う。合計が、60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とする。また、公欠を除き 1/3 を超える欠席をした者は評価の対象外とする。</p>					
その他 特記事項						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
金融論	石原 洋介	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	日本の金融システム、金融市場、金融商品、金融政策及び過去の金融危機の背景などについて、最新のデータを示しながら概要を解説し、現代社会で必要とされる金融に関するリテラシーを身につけられるようにする。また、レポート課題を通じて、金融に関する今日的な課題に対して専門的な知識に基づき考察する力を伸ばす。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融リテラシーを身につけ、今後の人生において金融を適切に利用できるようになる。</li> <li>・金融に関する社会問題について専門知識に基づいて考察し、自分の考えを論理的に展開できる。</li> </ul>					
回	学習内容		回	学習内容		
1	ガイダンス、貨幣の歴史①、貨幣の起源		16	国債②、国債価格、国債格付け、発行の仕組み		
2	貨幣の歴史②、日本の貨幣史		17	短期金融市場①、インターバンク市場		
3	商品と貨幣①、商品交換と貨幣の発生		18	短期金融市場②、オープン市場		
4	商品と貨幣②、貨幣の発展段階と金本位制		19	長期金融市場①、証券取引所、債券市場		
5	貨幣の機能①、貨幣の機能		20	長期金融市場②、株式市場		
6	貨幣の機能②、信用創造とマネーストック		21	日本銀行と金融政策①、沿革、3つの機能		
7	資金循環①、資金循環と企業の資金調達方法		22	日本銀行と金融政策②、伝統的金融政策		
8	資金循環②、間接金融と直接金融		23	日本銀行と金融政策③、非伝統的金融政策		
9	日本の金融機関①、日本の銀行		24	国際収支と外為市場①、国際収支		
10	日本の金融機関②、協同組合系金融機関など		25	国際収支と外為市場②、外国為替取引、為替相場		
11	日本の金融機関③、保険業、ノンバンク		26	国際収支と外為市場③、外国為替市場		
12	日本の金融機関④、証券業、政府系金融機関		27	デリバティブ市場①、取引の概要、先物取引		
13	銀行融資と金利①、プライムレートと金利		28	デリバティブ市場②、スワップ、オプション		
14	銀行融資と金利②、金利の構成要素と変動要因		29	サブプライム危機①、危機発生の背景		
15	国債①、国債の種類		30	サブプライム危機②、今後の教訓		
予習内容 復習内容	予習：事前配布するレジюмеに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。					
教科書	特定のテキストは使用しない。単元ごとにレジюмеを配布する。					
成績評価	毎回提出する質問カードの内容（30%）、課題レポート（70%）					
実務経験						
その他 特記事項	関連講義として「統計学」、「経済原論」、「経済政策」、「簿記原理」、「財政学」、「国際経済論」等を履修することが望ましい。また、新聞を毎日読むように。					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
財政学	大畑 智史	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。</p>					
到達目標	<p>①国家財政の基本的な仕組みを理解することができる。 ②国家財政の現状について専門的に理解することができる。 ③国家財政の課題解決策について専門的に考察することができる。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション：財政とは	16	法人課税：理論			
2	財政学の歴史：ワグナーまで	17	法人課税：制度			
3	財政学の歴史：現代まで	18	中間テスト：日本財政を考える			
4	財政の範囲	19	消費課税：理論			
5	財政の機能：資源配分、所得再分配	20	消費課税：制度			
6	財政の機能：経済安定化	21	資産課税：理論			
7	公共財：定義	22	資産課税：制度			
8	公共財：政治的側面から	23	国際課税：理論			
9	予算：予算原則	24	国際課税：制度			
10	予算：予算の内容	25	公債：理論			
11	予算：特別会計、決算、他	26	公債：制度			
12	租税の基礎：租税の基礎用語	27	国と地方との財政関係：特定補助金			
13	租税の基礎：租税原則	28	国と地方との財政関係：一般補助金			
14	個人所得課税：理論	29	社会保障：理論			
15	個人所得課税：制度	30	社会保障：制度			
予習内容 復習内容	<p>予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。</p>					
教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。					
成績評価	<p>中間テスト：20% 講義内容についての感想（4回）：20% 定期試験：60%</p>					
実務経験						
その他 特記事項	初回に配布する「シラバス補足事項」もよく読んでください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治経済学	深井 英喜	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経済学の基本的な考え方である理論経済学には、近代経済学と政治経済学（または社会経済学）という2つの体系があります。この講義では、政治経済学の体系を学習します。具体的には、マルクス経済学、ポスト・ケインズ派経済学、そして制度学派経済学といった経済学の考え方を扱います。経済学や経営学の考え方の基礎を学習することが、この講義の目的です。					
到達目標	理論経済学は、経済学そして経営学の考え方の基礎となります。経済学が資本主義社会をどのように見るのか、その基礎的な考え方を学習することを通して、学生は、経済学や経営学を学ぶための基礎を習得します。					
回	学習内容					
1	ガイダンス : 経済学を学ぶということについて。また、経済学が考えようとしている課題について。					
2	商品と価値 : 資本主義社会の基本的な特徴①					
3	貨幣の諸定義 : 資本主義社会の基本的な特徴②					
4	価値と価格① : 市場の働きとその役割について考える					
5	価値と価格② : 市場競争の役割と、市場がうまく働く条件について考える					
6	資本主義的生産の仕組み					
7	剰余価値の生産① : 利潤はどこから生じるのか					
8	剰余価値の生産② : 利潤が増えるメカニズム。また、その結果、社会はどのような影響を受けるか。					
9	資本の蓄積と再生産① : 社会はどのように維持されるのか（単純再生産）					
10	資本の蓄積と再生産② : 経済はどのように成長するのか					
11	技術革新と雇用① : 技術の進歩によって経済はどのように成長するのか					
12	技術革新と雇用② : 技術の進歩によって社会はどのような影響を受けるのか					
13	生産様式と労働の包摂 : 資本主義社会と労働環境について考える					
14	金融市場の構造とメカニズム : “お金”とは何か。そして、“お金”はどのようにして生まれるのか					
15	講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習として日頃から社会経済ニュースに関心をもつ。 復習は講義の内容を自らのノートにまとめる。					
教科書	レジュメを配布する。					
成績評価	中間課題 30%。期末試験 70%。 ミニツペーパーの内容で10点を上限に加点。					
実務経験						
その他 特記事項	非常勤のため、講義の後の休み時間をオフィスアワーとする。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
日本経済論	鈴木 伸	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この授業では経済学の観点から日本経済の変容を捉えていくことを目的とする。日本経済は 1990 年代を境い目に転換期を迎え、格差拡大に代表されるように様々な課題を抱えている。将来を考えていく上でこうした問題を自分の頭で考えていくことは必要不可欠といっても過言ではないだろう。授業では経済学の分析視角を学ぶとともに、日本経済に関する幅広い論点を取り扱っていく。また日本経済を分析し自らの意見を述べる方法論についても扱っていく。					
到達目標	①多様な観点から日本経済について複合的に見ていくことができるようになる。 ②経済学の分析視点を身に着け、日本経済を論じることができるようになる。 ③得た知識と分析枠組みを用いて、日本経済について自らの考えを述べられるようになる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：日本経済をどう捉えるか					
2	世界経済はどこで歪んだのか					
3	日本経済の歩み：日本型経済システムの成立と解体					
4	平成の「失われた 30 年」と日本経済の構造変化					
5	キャッシュレス経済の現状と課題					
6	グローバル化は国民を豊かにするのか：変質する自由貿易の理念と通商政策					
7	劣化する労働環境と「働き方改革」					
8	ベーシック・インカムは社会保障の核となり得るか：現金給付の意義とは					
9	国民皆保険制度は本当に持続的か：制度危機の処方箋の検討					
10	農山村の内発的発展と財政：林業・木材産業をケースに					
11	経済成長・格差・少子高齢化					
12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化：NPO、社会的企業、CSR、ESG 投資のゆくえ					
13	情報化、IoT 時代がもたらす未来社会の「姿」					
14	日本経済はどこへ行くのか？（全授業のまとめとレポートの書き方について）					
15	ディスカッション：日本経済を論じよう					
予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、毎授業提出のコメントシートに疑問点を書く。 復習：授業後にコメントシートを提出し、授業で学んだことを提出する。					
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済（仮）』鉾脈社					
成績評価	コメントシートの提出：40% 授業で別途出す課題：20% 最終レポート：40%					
実務経験						
その他 特記事項	コメントシートはオンラインベースで行う。また 15 回目のディスカッションはプレゼンをしてもらう予定だが、受講生数等を踏まえ最終的に決定する。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際経済論	三瀬 貴弘	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	国際経済論は、国と国の間を移動する経済要素に焦点を当てた学問である。講義では、4つの小テーマ「国際経済論の基礎知識」「リーマンショック」とその意義「国際経済の基礎理論」「IMF=ドル体制の成立と崩壊」について勉強し、アメリカを中心とした国際的な資金循環の実態と意義・限界について考察したい。講義では、詳細なレジュメを配布しそれに基づき講義するが、面白おかしい問題に取り組む「頭の体操」や、速記のスピードを競う「速記バトル」、居眠り防止のためにクイズを出す「〇突クイズ」など、受講生が退屈しない授業を行う。					
到達目標	①学生は国際経済の基礎知識を習得できる。②学生は「リーマンショック」の仕組みと意義を理解できる。③学生は国際経済に関する経済理論を理解できる。④学生は IMF=ドル体制の意義を理解できる。					
回	学習内容					
1	オリエンテーション（国際経済論とはどのような学問か？）					
2	ドラクエから始める国際経済論入門（アフターコロナの経済、アジアの勃興）					
3	日経平均株価から始める国際経済論入門（為替介入、実需と投機、LTCM）					
4	「リーマンショック」の分析視角①（サブプライムローン、債権の証券化、住宅価格のバブル）					
5	「リーマンショック」の分析視角② 軽視説（実質 GDP 成長率、失業率、財政政策、金融政策）					
6	「リーマンショック」の分析視角③ グローバルキャピタリズムの危機説（アジア通貨危機）					
7	「リーマンショック」の分析視角④ 戦後資本主義世界体制の危機説（海外直接投資、覇権の脆弱化）					
8	総余剰分析（底辺への競争、タックスヘイブン、BEPS 報告書、死荷重）					
9	リカード理論①（絶対優位、比較優位）					
10	リカード理論②（比較生産費、投入係数、技術、ヘクシャーオリーン定理）					
11	マンデルフレミングモデル（固定相場、変動相場、IS-LM-BP 分析、国際金融のトリレンマ）					
12	マルクス経済学の基礎（史的唯物論、過剰生産恐慌、サプライチェーン、新部門形成投資）					
13	軍事と経済（ディグラス、ニュールック、超先端軍需産業、ベトナム戦争）					
14	IMF=ドル体制（基軸通貨特権、金利平衡税、ニクソンショック）					
15	薄氷の帝国アメリカ（レーガノミクス、平和の配当、対テロ戦争、危うい循環、オバマ・イニシアティブ）					
予習内容 復習内容	予習：新聞やテレビのニュース、ネット等を通じ、国際社会で今何が起きているかを知っておく。 復習：配布レジュメや資料を読み直すこと。					
教科書	なし					
成績評価	レポート 100%。授業への積極的参加などを加点要素とする（3%以内）。 6回以上欠席した場合は、レポートの提出資格はありません。					
実務経験						
その他 特記事項	メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。学生を指名することは、絶対にしませんので、気軽に受講してください。授業を難しく感じた場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、適宜調整します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済政策	熊澤 大輔	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>本科目は、資本主義経済の特徴を理解することで、現代的な諸問題（不況、失業、格差、財政赤字、少子高齢化など）について考察するために必要な基礎知識を身につけることを目的としています。授業前半では、資本主義経済の運動（成長と景気循環）、市場のメカニズムについての理論的な説明を行います。授業後半では、前半の知識を活かしながら、統計資料を読み解き、1980年以降の日本経済について景気と経済政策の関係を中心に分析していきます。数学的な手法を用いる場合がありますが、図解してなるべく平易に解説するよう努めています。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本主義経済の運動について理解する。</li> <li>・市場における分配のメカニズムを理解する。</li> <li>・景気に応じて適切な経済政策を考えられるようになる。</li> </ul>					
回	学習内容					
1	イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済学説の発展）					
2	資本主義経済の特徴（成長と分配）					
3	資本主義経済の長期的運動（蓄積、拡大再生産、労働生産性の上昇）					
4	市場のメカニズム①生産可能性集合、交換の利益					
5	市場のメカニズム②労働力の交換、所有分布の偏り、比較優位					
6	市場のメカニズム③利潤最大化、労働の搾取					
7	資本主義経済の短期的循環運動（景気循環発生のメカニズム）					
8	景気のコントロール①金融政策（利子率の決定、買いオペ、売りオペ、インフレ目標政策）					
9	景気のコントロール②財政政策（限界消費性向、租税、乗数効果）					
10	景気のコントロール③一般均衡モデル（労働市場と財市場の関係）					
11	日本経済①1983-1993 バブル形成と崩壊					
12	日本経済②1993-2003 長期不況と財政赤字					
13	日本経済③2003-2013 構造改革と雇用環境					
14	日本経済④2013-現在 アベノミクスの功罪					
15	総論（復習、まとめ）					
予習内容 復習内容	予習内容：授業用資料の確認 復習内容：授業用資料の復習。分からない点を重点的に。					
教科書	毎回パワーポイントを配布する。					
成績評価	出席時に提出する質問・要望・感想（10%） 中間レポート（40%） 期末レポート（50%）					
実務経験						
その他 特記事項	レジュメの配布や出欠管理・レポート提出などすべて Google の Classroom を用いて行います。授業内容は簡単ではありませんが、経済が日々の生活に直結する身近なもの意識できるような内容になっているかと思えます。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域経済学	南 慎二郎	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	我々の日常生活において最も密接に関わるものとして地域経済社会がある。地域といった場合、一定の狭い空間範囲で区切られたローカルの存在であるが、一方で、現代におけるグローバル化・分権化・人口減少の潮流の中で地域は直接的に影響を受けることとなる。そのような地域における経済社会をどのように維持・発展させるかは、誰にとっても直面し、取り組まねばならない課題である。本講義では地域経済の理論やこれまでの学説、現実の地域経済の課題や政策を検討する。					
到達目標	①地域経済に関する基本的な概念や問題を幅広く理解し、説明することができる。 ②具体的な地域経済に関する問題を把握し、論じることができる。					
回	学習内容					
1	地域経済学とはなにか：地域の概念、地域経済学の構成、都市と農村					
2	地域の経済理論：チューネン等の立地論の系譜とその理論					
3	地域経済の分析法、産業連関、費用便益、地域の政治経済学					
4	地域経済と地域システム：立地論からシステム論へ、地域システムと企業システム、産業クラスター					
5	地域経済と都市論：都市の経済学的定義、田園都市論					
6	地域経済の都市化：集積利益、社会的分業の進行					
7	資本主義と地域経済：都市化の進行、グローバリゼーション					
8	地域経済と都市問題の深刻化：集積不利益、公共政策の拡大、現代的貧困					
9	地域問題と地域政策：地域政策効果の考察、政府の失敗、TVA(テネシー川流域開発公社)の実践					
10	地域政策と内発的発展論					
11	日本の国土開発の歴史と地域経済：全国総合開発計画、国土形成計画					
12	日本の大都市圏の現状と展望：首都圏					
13	地方都市の内発的発展：石川県金沢市					
14	農山村の内発的発展：岡山県新庄村、大分県由布院					
15	創造都市論：イタリア・ボローニャ					
予習内容 復習内容	予習：参考書や講義内で提示する参考資料・URLを読む。 復習：その回に指示した参考文献、その回の講義資料を読む。					
教科書	教科書は使用しない。講義資料としてレジュメおよびスライドを用いる。					
成績評価	授業内で実施する小課題 50%、レポート課題 50%					
実務経験						
その他 特記事項	全般的に関係する参考文献として以下を紹介しておく。宮本憲一、横田茂、中村剛治郎(編)『地域経済学』有斐閣、1990年。中村剛治郎編『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣、2008年。岡田知弘、川瀬光義、鈴木誠、富樫幸一『国際化時代の地域経済学〔第4版〕』有斐閣、2016年。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方財政論	大畑 智史	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面で重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、特に日本の地方自治体の場合に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な地方自治体の財政に関し専門的に考察できることを目標とします。</p>					
到達目標	<p>①地方財政の基本的な仕組みを理解することができる。  ②地方財政の現状について専門的に理解することができる。  ③地方財政の課題解決策について専門的に考察することができる。</p>					
回	学習内容					
1	オリエンテーション：地方財政とは					
2	地方自治体の役割					
3	地方分権					
4	公共財					
5	予算制度					
6	地方税：理論					
7	地方税：制度					
8	国と地方との財政関係：特定補助金					
9	国と地方との財政関係：一般補助金					
10	地方債：理論					
11	地方債：制度					
12	地方財政健全化					
13	地方公営企業と第三セクター					
14	公会計					
15	地方財政改革、まとめ					
予習内容 復習内容	予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。					
教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。					
成績評価	定期試験：70% 講義内容についての感想（3回）：30%					
実務経験						
その他 特記事項	初回に配布する「シラバス補足事項」もよく読んでください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営学	浅野 和也	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていきます。あわせて、企業が抱える諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方を培っていきます。					
到達目標	経営学の基本学説や諸理論について理解・説明できる。 企業における人・モノ・お金・情報の各経営資源の特質をふまえて、企業が抱える諸問題について理解・説明できる。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	ガイダンス：授業の進め方		16	行動科学論		
2	企業の基本形態と特徴		17	日本的経営の特質の制度		
3	株式会社制度		18	日本的経営の短所・諸問題		
4	管理の役割と目的		19	事例分析：自動車（生産）		
5	経営組織とは何か		20	事例分析：自動車（労働）		
6	経営戦略とは何か		21	戦前の日本企業の特徴		
7	アンゾフ・ポーターの戦略論		22	財閥の展開：総合財閥		
8	コンビニ：ビジネスモデル		23	財閥の展開：新興財閥		
9	コンビニ：新たな成長と諸問題		24	ビッグビジネス：鉄鋼		
10	ゲーム産業：市場の創造		25	ビッグビジネス：石油		
11	ゲーム産業：市場の変化		26	ビッグビジネス：化学		
12	携帯電話：ガラケーの成長		27	ワークライフバランス		
13	携帯電話：スマホの急成長		28	ダイバーシティ		
14	科学的管理法と大量生産方式		29	グローバル化の功罪		
15	人間関係論の生成と展開		30	総括：企業経営の諸課題		
予習内容 復習内容	予習：講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習：予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。					
教科書	プリント教材を配布、テキストは指定しません。参考文献は必要に応じて紹介します。					
成績評価	最終レポート：50%、講義内での課題レポート：30%、平常評価（コメントシート）：20%					
実務経験						
その他 特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。					



科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
マーケティング論 I		鷺尾 和紀	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	後日揭示						
到達目標							
回	学習内容						
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
予習内容 復習内容							
教科書							
成績評価							
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
マーケティング論Ⅱ		鷲尾 和紀	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	後日揭示						
到達目標							
回	学習内容						
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
予習内容 復習内容							
教科書							
成績評価							
実務経験							
その他 特記事項							

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
人的資源管理論	浅野 和也	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	人（人材）の存在を考えない企業経営はありません。どのような人材を確保し育てていくかは企業の命運を左右します。同時に、企業の思いばかりが先行すると、従業員のモチベーションは低下し企業を持ち味も失われてしまいます。本講義では、日本企業の人材育成とその管理の方法を考察します。あわせて、その施策は働く側にどのような影響を及ぼすか、そして日本企業での働き方・働かせ方の問題を考えつつ、生活や社会への課題も考察します。					
到達目標	日本企業における人材育成の特徴について系統立てて理解・説明できること。 日本企業が抱える労働問題について政策の内容をふまえて問題点を抽出し解決策への道筋を理解・説明できること。					
回	学習内容					
1	ガイダンス - 授業の進め方					
2	企業経営と人材育成					
3	雇用管理 1：雇用慣行と採用の流れ					
4	雇用管理 2：組織設計と職務設計、配置					
5	人事制度 1：職能資格制度					
6	人事制度 2：人事考課（査定）					
7	賃金管理 1：賃金体系と項目					
8	賃金管理 2：賃金額と決まり方					
9	労働時間管理 1：労働時間の長さや制度					
10	労働時間管理 2：長さではない働き方の展開					
11	能力開発 1：新入社員教育、自己啓発					
12	能力開発 2：異動と成長					
13	雇用の多様化					
14	労使関係と労働組合					
15	総括：課題解決への道筋					
予習内容 復習内容	予習：講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習：予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。					
教科書	プリント教材を配布、テキストは指定しません。参考文献は必要に応じて紹介します。					
成績評価	最終レポート：50%、講義内での課題レポート：30%、平常評価（コメントシート）：20%					
実務経験						
その他 特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
会計学	田中 里美	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	<p>会計学では、企業が公表する決算書を市民の視点から読み解けるように学習する。決算書とは、財務諸表とも呼ばれ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等から構成される。これらの決算書が読めるようになると、企業の財産や利益、資金の流れがわかり、企業の業績を評価することができる。</p> <p>本講義では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学習し、決算書が読めると付加価値や内部留保、粉飾決算等、さまざまな事が分析できるという事を学習する。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学ぶ。</li> <li>2 決算書の基礎的な知識を基に、付加価値分析や内部留保分析や法人税負担率の分析を学ぶ。</li> <li>3 粉飾決算がどのようにして生じるのかを学ぶ。</li> </ol>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス—会計学とは	16	損益計算書の応用と包括利益計算書			
2	社会科学としての会計学	17	貸借対照表項目の応用			
3	会計基準のグローバル化	18	株主資本等変動計算書			
4	貸借対照表の構成要素について	19	比率分析のまとめと小テスト③			
5	損益計算書の構成要素について	20	法人企業統計と付加価値分析			
6	会社の種類と会計基準	21	内部留保の社会問題化			
7	決算書の入手の仕方、基本指標について	22	内部留保分析について			
8	損益計算書の読み方	23	私立大学の経営分析			
9	貸借対照表の読み方	24	実質法人税負担率の算定分析			
10	貸借対照表と損益計算書のまとめと小テスト①	25	受取配当益金不算入について			
11	比率分析の基礎知識	26	付加価値分析と富の分配			
12	収益性の分析	27	キャッシュ・フロー計算書について			
13	財務安定性の分析	28	企業評価とオリンパスの粉飾決算			
14	経営分析指標の平均値と同業他社の比較方法	29	各種分析のまとめと小テスト④			
15	比率分析のまとめと小テスト②	30	小テストの講評と全体の総括			
予習内容 復習内容	<p>予習：教科書に目を通しておく。 復習：ノートの整理、教科書をもう一度目を通す。</p>					
教科書	『市民が学ぶ決算書』唯学書房					
成績評価	小テスト（4回）60%（1回15%）、期末レポート40%。なお、出席は毎回取ります。					
実務経験						
その他 特記事項	電卓の用意が必要。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
簿記原理	大井 幸助	講義	4		2	1, 2, 5
授業概要 授業目的	日商簿記検定 3 級の試験範囲を学習します。 机上の学習だけではなく、実務的な目線を交えて講義を行います。 簿記初学者の方が簿記の基礎を理解できることを目的とします。					
到達目標	日商簿記検定 3 級に合格できる実力を身につけること。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	簿記の基礎		16	試算表		
2	記帳のルール		17	決算		
3	仕訳と勘定記入		18	決算整理（現金過不足）		
4	三分法		19	決算整理（貯蔵品・当座借越）		
5	掛け取引		20	決算整理（売上原価）		
6	返品・諸掛		21	決算整理（貸倒れ）		
7	商品有高帳		22	決算整理（減価償却）		
8	現金・預金		23	決算整理（前払・前受）		
9	小口現金・売掛金		24	決算整理（未収・未払）		
10	手形取引・でんさい		25	決算整理後残高試算表・精算表		
11	さまざまな帳簿の関係		26	帳簿の締め切り		
12	貸付金・借入金		27	決算書・株式の発行		
13	有形固定資産		28	剰余金の配当と処分・税金		
14	仮払金・仮受金		29	証憑と伝票		
15	訂正仕訳・試算表		30	総合問題解答及び解説		
予習内容 復習内容	予習：該当箇所についてテキストを通読しておく。 復習：講義内で実施する筆記問題を反復練習。					
教科書	合格テキスト日商簿記 3 級（TAC 出版）					
成績評価	定期試験（80%）、出席時に提出するレポート内容（20%）					
実務経験						
その他 特記事項	講義には電卓（12桁）を使用します。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
工業簿記および原価計算	藤田 美咲	講義	2		2	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品原価の計算についてその基本を理解することを目的とします。					
到達目標	日本商工会議所簿記検定 2 級の工業簿記レベルの実力を修得する土台として、原価計算の基本である個別原価計算と総合原価計算の手法とその帳簿記入を習得することができる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、原価とは					
2	工業簿記の基礎概念、勘定連絡					
3	材料費、労務費					
4	経費、予定消費単価、予定賃率					
5	個別原価計算					
6	製造間接費の予定配賦、差異分析					
7	部門別個別原価計算					
8	単純総合原価計算					
9	仕損品が存在する場合					
10	工程別総合原価計算					
11	組別総合原価計算、等級別原価計算					
12	財務諸表の表示、本社工場会計					
13	直接原価計算					
14	CVP 分析					
15	まとめ講義					
予習内容 復習内容	予習：前回内容を振り返り、今回内容の前提を確認しておいて下さい。 復習：授業中に扱った問題をもう一度解きなおして下さい。					
教科書	(テキスト) 「合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記」 TAC 出版					
成績評価	出席は毎回とります。全授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると、評価の対象外とします。 試験 80% に平常点 (出席状況、講義中の態度、問題に取り組む姿勢) 20% を加味して判定します。					
実務経験	公認会計士・税理士として監査法人及び税理士法人での財務諸表監査、決算書作成、税務申告、経営指導、M&A などの実務経験を有する。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。					
その他 特記事項	講義には電卓をご用意ください。 本講義は簿記 3 級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
上級簿記	岡本 大佑	講義	2		2	1, 2, 5
授業概要 授業目的	簿記の知識は資格試験のためだけでなく、実務に役立つものとして多くの企業から求められております。また、企業経理の場面だけでなく、金融・投資・為替など様々なお金の流れを把握できるツールとしても活かすことができます。本授業では、日商簿記3級程度の知識を前提として、主に日商簿記2級商業簿記の内容を取り上げ、授業と演習を繰り返し行うことにより簿記の能力の定着と向上を図ります。					
到達目標	高度な商業簿記を習得することにより、企業の活動や経営内容を財務諸表の数字から把握することができる。また、机上の知識だけでなく実務に即した簿記知識を身につけることができる。					
回	学習内容					
1	ガイダンス、財務諸表					
2	商品売買					
3	現金・預金（銀行勘定調整）、債権・債務（手形・電子記録債権）					
4	有価証券					
5	有形固定資産（1）					
6	有形固定資産（2）、リース取引、無形固定資産・研究開発費					
7	引当金、外貨換算会計					
8	税金、税効果会計					
9	株式の発行、剰余金の配当と処分、決算手続（1）					
10	決算手続（2）、収益認識基準					
11	本支店会計					
12	合併・事業譲渡、連結会計（資本連結1）					
13	連結会計（資本連結2）					
14	連結会計（成果連結）					
15	製造業会計、総復習（全体のまとめ）					
予習内容 復習内容	予習：テキストの授業範囲に目を通しておく。 復習：授業中に扱った問題を再度解き直しておく。					
教科書	初回の授業時に指定します。（日商簿記検定2級用の書籍を予定）					
成績評価	定期試験（70%）、平常点（30%）で評価します。 平常点は出席状況や講義に取り組む姿勢等で総合的に判定します。					
実務経験	現在、税理士（名古屋税理士会所属）として税理士事務所とコンサルティング会社を経営しております。税理士の実務経験に基づき、簿記知識がどのように社会に活かされるかを解説していきます。					
その他 特記事項	授業には電卓（10桁以上のもの）をご用意ください。 本授業は日商簿記3級程度の知識があることを前提としております。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	柏崎 早陽子	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、受講生を主体として、文献や判例の研究・報告を通じて刑法の諸問題について検討し、理解を深めます。前期は、興味を持つ研究テーマを選択してもらい、そのテーマについての報告をおこなってもらいます。後期は、前期に選択したテーマについての研究を深め、その内容について報告をおこなってもらいます。本演習の総まとめとして卒業論文の執筆を目指します。					
到達目標	報告や議論、卒業論文の執筆等を通じて、①法的な問題点を発見することができる、②他者を納得させる形で自己の意見を主張することができる、③物事を論理的に説明する力を身につけることができる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	前期ガイダンスー本演習の進め方、評価方法等	16	後期ガイダンスー卒業論文の執筆に向けて			
2	法令の種類、条文の読み方	17	卒業論文の進捗報告			
3	裁判・裁判制度に関する基礎知識	18	卒業論文の構成を練る			
4	法律文献や判例の探し方	19	卒業論文の文献の収集			
5	法の解釈	20	卒業論文の判例の収集			
6	法の解釈と判例	21	卒論報告用の資料作成①：文献の整理			
7	興味のある研究テーマを選択&テーマ報告	22	卒論報告用の資料作成②：判例の整理			
8	卒業論文の執筆方法と研究倫理	23	卒論報告用の資料作成③：学説の整理			
9	報告レジュメの作成方法	24	卒論報告用の資料作成④：結論の整理			
10	卒業論文の中間報告①：文献の報告	25	卒業論文を形にする			
11	卒業論文の中間報告②：判例の報告	26	卒業論文の最終報告①：個別報告&質疑応答			
12	卒業論文の中間報告③：学説の報告	27	卒業論文の最終報告②：個別報告&質疑応答			
13	卒業論文の中間報告④：結論の仮報告	28	卒業論文の最終報告③：個別報告&質疑応答			
14	夏期休暇中の卒業論文の進め方	29	卒業論文の最終報告④：個別報告&質疑応答			
15	前期のまとめ	30	後期のまとめ			
予習内容 復習内容	報告用資料の作成等を通じて予習し、演習内で扱った用語や論点等を振り返ることで復習する。新聞などを通じて時事問題にも触れるのが望ましい。					
教科書	教科書は特に指定しない。ただし、最新の六法を毎回必ず持参すること。その他、演習内で適宜紹介する。					
成績評価	①報告・報告用資料の作成（50%）、②授業への参加態度（50%）とし、①・②をもとに総合評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	発言や報告の内容が間違っていたら恥ずかしい？友人や教員の意見に迎合しないとマズイ？・・・そんなことはありません。間違いをおそれず、素朴な疑問でも何でもぶつけて楽しく演習を進めていきましょう。演習内で扱う判例等については、適宜変更する可能性があります。					



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	鎌塚 有貴	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	「憲法 I・II」の講義中では詳細に扱うことのできなかつた事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。各回担当者による報告形式とし、卒業論文の執筆を最終目標とする。					
到達目標	一つのテーマに沿って、自分の意見を発表できるようになること。 時事問題を含む実際の社会問題と憲法を関連付けて考えられるようになること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス：ゼミの進め方、研究倫理について	16	選挙権			
2	人権総論	17	選挙制度			
3	幸福追求権	18	統治総論			
4	法の下での平等	19	国会の仕組み			
5	思想・良心の自由	20	委員会制度			
6	信教の自由	21	国政調査権			
7	表現の自由	22	議院内閣制			
8	身体の自由	23	外交			
9	経済的自由権	24	裁判所の組織			
10	生存権	25	司法権の独立			
11	教育を受ける権利	26	違憲審査制			
12	学問の自由	27	地方自治			
13	大学の自治	28	財政			
14	婚姻の自由	29	平和主義			
15	国籍	30	天皇制			
予習内容 復習内容	新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）、その他授業中に指示するもの。					
成績評価	報告 50%、授業への参加態度 50%。					
実務経験						
その他 特記事項	授業計画は適宜変更の可能性がある。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	川上 哲	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	この演習では、政治学や行政学の立場から現代日本の政治・行政の諸問題を扱っていく。前期は主に公共政策や公務員に関わる文献輪読を通じて議論を行い、自らの問題関心を深める。後期は四大公害病、特に四日市公害について理解を深めることと卒業研究を仕上げる。可能であれば「四日市公害と環境未来館」の見学も行う予定である。適切な質問や議論は自らの問題意識を深める格好の機会であることを学んで欲しい。					
到達目標	①日本の政治や行政への問題関心を深める。 ②自らの見解を分かりやすく伝えることができる。 ③卒論作成を通じ、科学的な態度を身に付ける。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ゼミ概要と評価方法並びに研究倫理に関する講義	16	『四大公害病』① 水俣病			
2	『入門 公共政策学』① なぜ公共政策学か	17	『四大公害病』② 新潟水俣病			
3	『入門 公共政策学』② 問題	18	『四大公害病』③ イタイイタイ病			
4	『入門 公共政策学』③ 設計	19	『四大公害病』④ 四日市公害			
5	『入門 公共政策学』④ 決定	20	『四大公害病』⑤ 公害病と二十一世紀			
6	『入門 公共政策学』⑤ 実施	21	四日市公害と環境未来館の見学前準備			
7	『入門 公共政策学』⑥ 評価	22	四日市公害と環境未来館の見学			
8	『入門 公共政策学』⑦ 公共政策の改善	23	卒業研究の内容についての個別報告			
9	『職業としての官僚』① 日本の官僚の実像	24	資料の収集状況についての個別報告			
10	『職業としての官僚』② 平成期公務員制度改革	25	卒業研究の構成についての個別報告			
11	『職業としての官僚』③ 英米独仏4か国からの示唆	26	卒業研究についての個別指導			
12	『職業としての官僚』④ 官僚論から現代への示唆	27	卒業研究についての個別相談			
13	『職業としての官僚』⑤ 結び	28	卒業研究—研究内容の個別報告			
14	卒業研究のテーマ報告	29	卒業研究—質問と討議			
15	卒業研究の方法論報告	30	後期のまとめ			
予習内容 復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。 授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。					
教科書	○秋吉貴雄『入門 公共政策学—社会問題を解決する「新しい知」』（中公新書、2017年） ○嶋田博子『職業としての官僚』（岩波新書、2022年） ○政野淳子『四大公害病』（中公新書、2013年）					
成績評価	評価は出席時の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価する。					
実務経験						
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。指定された教科書を事前に購入すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	照井 遥瑛	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、著名な判例、著名な学者の論文等から、受講生が興味のある民法に関わるテーマを選択し、報告をしてもらう形式を採る予定です。民法の学習において基礎的知識の修得は勿論大事ですが、特に重要なことは、「ある問題に対する考え方は一つではなく、さらには時代や人が変われば結論も変わる可能性がある」という目線を持つことです。調査・報告・議論を繰り返し、研究成果を卒業論文として残すことは、そのような目線を持つことができるようになるだけでなく、論理的思考力や報告能力の向上にも繋がりますし、どのような進路に進むにしても必要な訓練です。					
到達目標	①文献調査・報告等を通じて、法的な問題を発見する力、簡潔に報告する力を身に付けること。 ②卒業論文の執筆を通じて、論理的な文章を書く力を身に付けること。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	前期ガイダンス（自己紹介、演習の進め方、成績評価方法の説明など）		16	後期ガイダンス（卒論の執筆についてなど）		
2	研究倫理について学ぶ		17	夏休み中の研究成果を報告		
3	判例検索の仕方を再確認		18	卒論の目次を作成してみる		
4	論文検索の仕方を再確認		19	売買後に規制された物質による土壌汚染の判例について検討		
5	各受講生から関心のあるテーマについて報告		20	未成年者の不法行為と監督義務者の責任の学説について検討		
6	執筆計画を立ててみる		21	内縁・事実婚をめぐる法的問題について検討		
7	報告資料をレジюмеで作成してみる		22	子の引渡請求をめぐる法的問題について検討		
8	報告資料をパワーポイントで作成してみる		23	無権代理と相続をめぐる法的問題について検討		
9	卒論進捗報告		24	卒論の序論に焦点を当てた報告		
10	各受講生の卒論テーマを決定する		25	卒論で扱う判例に焦点を当てた報告		
11	民法 94 条 2 項の類推適用の判例について検討		26	卒論で扱う学説に焦点を当てた報告		
12	民法 177 条と第三者の学説について検討		27	卒論の結論に焦点を当てた報告		
13	卒論中間報告		28	最終報告用の資料を作成してみる		
14	夏休み中の執筆計画を各自報告		29	卒論最終報告		
15	前期まとめ		30	後期まとめ		
予習内容 復習内容	予習：事前に配布する資料や報告者が報告するテーマに関する判決や文献に目を通すこと。 復習：演習で扱ったテーマや専門用語を、書籍、レジюме、ノート等で確認すること。					
教科書	特に指定はしませんが、最新年度版の小型六法を必ず持参してきてください。また、報告テーマを決める上で有意義な書籍については開講時に紹介します。					
成績評価	報告・発言（50%）と報告レジюмеや卒業論文等の成果物（50%）を総合して成績評価を行います。					
実務経験						
その他 特記事項	一緒に相談しながらより良い演習にしていきたいと思っています。演習の主役は学生ですから、積極的に参加しようとする意欲をもって毎回出席してください。教員として、そのためのサポートを惜しみません。 民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、家族法を履修していることが望ましいです。なお、演習内で挑戦してみたいことがありましたら、遠慮なく申し出てください。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	西川 昇吾	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	<p>本演習では、社会科学、とりわけ労働法学に関する争点・課題について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一団となって研究・討議し、それらを成果として最終的に文章化する。具体的には、毎回、原則として学生1名が、自ら決定した主題に関する判例や法律文献等について報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。</p> <p>それにより、労働法学に関する諸問題について調査・考察しうる力を養うとともに、自説の打ち立てられた卒業論文を作成することが、本演習の目的である。</p>					
到達目標	<p>① 裁判所の認定事実・判旨を正確に把握でき、それらを他者へ段階的に説明することができる。</p> <p>② 自己や他者の主題に対して、直観的立場や分析視角をもつことができる。</p> <p>③ 自己の主題に対する自説を構想し、それを文章で表現・説明しうる力を獲得する。</p>					
回	学習内容	回	学習内容			
1	研究倫理の確認／検討判例の選定・報告順の決定	16	子の養育の状況への配慮に関する判例の事実研究			
2	労働協約に関する判例の研究	17	子の養育の状況への配慮に関する判例の要旨研究			
3	採用の自由の根拠に関する判例の事実研究	18	休業手当に関する判例の事実研究			
4	採用の自由の根拠に関する判例の要旨研究	19	休業手当に関する判例の要旨研究			
5	育児・介護休業法に関する判例の事実研究	20	支配介入に関する判例の事実研究			
6	育児・介護休業法に関する判例の要旨研究	21	支配介入に関する判例の要旨研究			
7	争議行為と賃金に関する判例の事実研究	22	入管法と労働法政策に関する判例の事実研究			
8	争議行為と賃金に関する判例の要旨研究	23	入管法と労働法政策に関する判例の要旨研究			
9	使用者の言論の自由に関する判例の事実研究	24	卒業論文の執筆方法			
10	使用者の言論の自由に関する判例の要旨研究	25	採用の自由に関する法律文献の研究			
11	外国人労働者に関する判例の事実研究	26	育児・介護休業法に関する法律文献の研究			
12	外国人労働者に関する判例の要旨研究	27	争議行為と賃金に関する法律文献の研究			
13	採用の自由の制限に関する判例の事実研究	28	使用者の言論の自由に関する法律文献の研究			
14	採用の自由の制限に関する判例の要旨研究	29	外国人労働者に関する法律文献の研究			
15	法律文献の研究方法	30	卒業論文の報告			
予習内容 復習内容	ゼミ生みずからが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足りなかった点を自己評価すること等により復習する。					
教科書	ジュリスト増刊『新・法律学の争点シリーズ7 労働法の争点』（有斐閣、2014年）、および『六法』が必要である。					
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、卒業論文（調査結果の整理、論点の解明、自説の展開等の可否）50%により、成績評価を行う。					
実務経験						
その他 特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、自己の主題だけでなく、他者の主題に関する基本的な知識についても、事前に理解したうえで、演習に臨んでほしい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	古畑 淳	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	共通テーマとして、社会保障行政を舞台として行政法の論点について学習します。また、ゼミ生各自が関心を寄せる行政分野の裁判例について議論、検討します。以上の学びを通じて、行政法の基礎知識を確かなものとするとともに、各行政分野の特性を知り、憲法が定める理念の実現のための行政及び行政の法のあり方について学習します。					
到達目標	文献の講読、裁判例の検討、ゼミでの報告を通じて、行政法の論点を自身の言葉で説明できるようになること。また、多様な考え方を理解した上で、自身の見解を文章で表現できるようになること。その総まとめとして、自身が関心を寄せる行政分野について、裁判例を素材として卒業研究をまとめること。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	前期ガイダンス（授業概要・演習の進め方・評価方法等についての説明）	16	後期ガイダンス（演習の進め方と卒業論文の執筆について）			
2	研究倫理について	17	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告①			
3	行政と行政法の最近の話題について	18	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告②			
4	法学文献の調べ方と読み方	19	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告③			
5	行政判例の調べ方と読み方	20	共通テーマ：福祉行政をめぐる行政法の論点①			
6	共通テーマ：年金保険判例にみる行政法の論点①	21	共通テーマ：福祉行政をめぐる行政法の論点②			
7	共通テーマ：年金保険判例にみる行政法の論点②	22	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告①			
8	共通テーマ：年金保険判例にみる行政法の論点③	23	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告②			
9	ゼミ生の活動：関心のある行政分野の裁判例を探す	24	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告③			
10	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告①	25	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告①			
11	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告②	26	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告②			
12	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告③	27	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告③			
13	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告④	28	ゼミ生の活動：卒業論文の報告資料の作成			
14	卒業論文の書き方	29	卒業論文の報告			
15	前期まとめ	30	後期まとめ			
予習内容 復習内容	報告レジュメを作成する。共通テーマで扱う裁判例、参考文献を読む。 報告と討論で得た学びを整理し、卒業論文の執筆を進める。共通テーマでの学びを整理する。					
教科書	教科書、参考文献等は初回講義時に提示します。 『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨んでください。					
成績評価	ゼミでの自身の報告（準備したレジュメの内容や報告での工夫等）とゼミへの参加状況（報告者に対する発言やゼミ運営への協力の姿勢等）を評価します（60%）。また、卒業論文等の成果物を評価します（40%）。					
実務経験						
その他 特記事項	行政法の授業を受講していることが望ましい。 学生の関心やゼミの進行状況により、各回の学習内容が変更となる場合があります。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	浅野 和也	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では経営学の基礎理論をふまえて、主に経営者と労働者双方の視点から企業経営と社会・生活の関係について考察しグループディスカッション（GD）を通じて理解を深めていきます。同時に、自分の関心のあるテーマで卒業論文の完成をめざします。					
到達目標	経営者と労働者の視点双方から企業経営・労働に関する制度や政策の分析に取り組み、自分の考えをまとめることができるようになること。また、企業の施策が社会に何をもたらすのか、課題を抽出し自分の考えを卒業論文にまとめること。					
回	学習内容		回	学習内容		
1	ガイダンス：演習の進め方		16	卒業論文の進捗状況報告		
2	テーマの選定		17	文献通読：能力開発		
3	問題意識の確認		18	報告：能力開発		
4	論文執筆の意義		19	GD：能力開発		
5	論文の起承転結		20	文献通読：ワーク・ライフ・バランス		
6	文献通読：雇用		21	報告：ワーク・ライフ・バランス		
7	報告：雇用		22	GD：ワーク・ライフ・バランス		
8	GD：雇用		23	文献通読：労使関係		
9	文献通読：賃金		24	報告：労使関係		
10	報告：賃金		25	GD：労使関係		
11	GD：賃金		26	文献通読：ブラック企業		
12	文献通読：労働時間		27	報告：ブラック企業		
13	報告：労働時間		28	GD：ブラック企業		
14	GD：労働時間		29	卒業論文の最終確認		
15	卒業論文の進捗状況報告		30	総括：卒業論文の発表		
予習内容 復習内容	予習：資料・GDのテーマについて自分の考えをまとめておく。 復習：ゼミ内で議論したことをふまえて卒業論文のブラッシュアップを進める。					
教科書	未定。卒業論文のテーマ等に合わせて紹介・決定します。					
成績評価	毎回の出席は必須。通読のレジメや報告：30%、卒業論文：70%					
実務経験						
その他 特記事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡してください。 演習の主役は学生です。皆さんの積極的な発言を期待します。 経営学・人的資源管理論・労働法・ジェンダー論などを受講・受講予定であることが望ましい。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	大畑 智史	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	地方創生は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、地方創生に関する議論などの取組みを通じ、履修生が、日本の地方が抱える問題の解決策を専門的に考えられるようになることを目標とします。					
到達目標	①地方創生の基礎的概念を理解できる。 ②地方創生の取組みなどの現状を理解できる。 ③地方創生策について専門的に考察することができる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	オリエンテーション：地方創生概観、研究倫理	16	文献講読、卒論経過報告、地方分権			
2	文献講読、卒論テーマ、国家財政	17	文献講読、卒論経過報告、公民連携			
3	文献講読、卒論テーマ、地方財政	18	文献講読、卒論経過報告、公共財			
4	文献講読、卒論経過報告、人口減少	19	文献講読、卒論経過報告、予算			
5	文献講読、卒論経過報告、少子高齢化	20	文献講読、卒論経過報告、社会保障			
6	文献講読、卒論経過報告、人口移動	21	文献講読、卒論経過報告、ふるさと納税			
7	文献講読、卒論経過報告、移民	22	文献講読、卒論経過報告、租税原則			
8	文献講読、卒論経過報告、ICT 活用	23	文献講読、卒論経過報告、国税			
9	文献講読、卒論経過報告、産業集積	24	文献講読、卒論経過報告、地方税			
10	文献講読、卒論経過報告、まちづくり	25	文献講読、卒論経過報告、国債			
11	文献講読、卒論経過報告、地域資源	26	文献講読、卒論経過報告、地方債			
12	文献講読、卒論経過報告、観光	27	文献講読、卒論経過報告、特定補助金			
13	文献講読、卒論経過報告、農業	28	文献講読、卒論経過報告、一般補助金			
14	文献講読、卒論経過報告、六次産業化	29	文献講読、卒論経過報告、財政健全化			
15	卒論経過報告会：地方創生策は何か	30	卒論最終報告会：地方創生策の効果			
予習内容 復習内容	予習：次回の報告テーマについて調べる。 復習：今回の議論の内容と自分の卒業論文の内容との関連性について考え、これを整理する。					
教科書	教科書は特に指定しません。本演習関連の文献については、適宜紹介します。					
成績評価	出席（演習時の発言）：20% 卒業論文関係（報告・議論・提出）：80%					
実務経験						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。</li> <li>学外学習を実施する予定です。</li> </ul> （参考）2023 年度訪問先：明和町、鳥羽市 2022 年度訪問先：津市美杉町奥津、熊野市					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	田添 篤史	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	現代の社会には様々な課題がある。それらを考えるために、現代社会について様々な面から取り扱ったテキストを輪読し、自分の担当回の発表およびゼミ全体でのディスカッションを行う。そのうえでゼミ生が自ら卒業論文のテーマを決定し、それに関する調査および報告を行い、卒業論文を完成させることを目的とする。					
到達目標	① 現在の社会・経済に関して重要と考える研究テーマを自ら設定し、テーマ設定の理由について説明することができるようになる。 ② 自分で設定したテーマに関して、卒業論文を完成させる。					
回	学習内容	回	学習内容			
1	社会科学演習の目標、評価方法の説明	16	卒業論文のテーマ発表			
2	論文の書き方について	17	テーマを決定した理由についての発表			
3	参考文献の探し方	18	テーマ選択の妥当性についての検討			
4	論文における引用のルール	19	先行研究の調査			
5	統計情報の活用方法および探し方	20	先行研究についてのまとめ			
6	日本の経済政策	21	先行研究に対する批判的検討			
7	労働政策	22	卒業論文の全体構成についての発表			
8	医療政策	23	卒業論文の構成についての検討			
9	住宅政策	24	主張の展開とその根拠づけについて			
10	コミュニティ政策	25	根拠づけの妥当性に関する検討			
11	財政政策	26	結論部分の発表			
12	金融政策	27	結論の妥当性についての検討			
13	科学技術政策	28	今後の課題について			
14	通商政策	29	卒業論文の発表			
15	開発援助政策	30	卒業論文に関するディスカッション			
予習内容 復習内容	予習：指定された文献について読んでおくこと。 復習：演習で行ったディスカッションをまとめておくこと。					
教科書	受講者と相談のうえで決定する。					
成績評価	ゼミでの発表およびディスカッションへの参加:60% 卒業論文:40%					
実務経験						
その他 特記事項						



科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会科学演習	田中 里美	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	大学で研究することの応用を学ぶ。社会科学をテーマとした自己の研究テーマを決定し、そのテーマについての資料収集を行う。そして、卒業論文を作成するために授業で報告し、教員やゼミ生からのアドバイスを基にして2年間の大学生活の集大成となる卒業論文を完成させることを目標にする。					
到達目標	1 卒業論文の報告 2 卒業論文のディスカッション 3 卒業論文の提出					
回	学習内容	回	学習内容			
1	ガイダンス—会計学分野での卒業論文の作成	16	経営分析的視点とディスカッション			
2	資料やデータ収集の仕方	17	内部留保分析視点とディスカッション			
3	教科書の報告 貸借対照表	18	粉飾決算分析的視点とディスカッション			
4	教科書の報告 損益計算書	19	卒業論文を作成するにあたって			
5	教科書の報告 キャッシュフロー計算書	20	卒業論文の執筆の注意事項（引用の仕方）			
6	教科書の報告 株主資本等変動計算書	21	卒業論文の執筆の注意事項（注の付け方）			
7	教科書の報告 その他付属明細書	22	卒業論文の報告 固定比率			
8	会計学的視点の総括とディスカッション	23	卒業論文の報告 回転率			
9	税務会計論的視点の総括とディスカッション	24	卒業論文の報告 売上高利益率			
10	卒業研究テーマの設定とディスカッション	25	卒業論文の報告 有価証券報告書の解説			
11	研究テーマの報告 ROA	26	卒業論文の報告 有価証券報告書の分析			
12	研究テーマの報告 ROE	27	各人の卒業論文の総括 業界分析			
13	研究テーマの報告 資本利益率の総括	28	各人の卒業論文の総括 業種分析			
14	研究テーマの報告 流動比率	29	各人の卒業論文の総括とディスカッション			
15	研究テーマの報告 当座比率	30	卒業論文の提出と全体総括			
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す。 復習：卒業論文にまとめる。					
教科書	初回の授業で指定する。					
成績評価	卒業論文の提出 80%、演習での積極的な参加や発言 20%、合計 100%					
実務経験						
その他 特記事項	ゼミ生同士の親睦も深めたいので、積極的な参加を期待する。 ゼミ生的人数により、スケジュールが変わることがある。 正規時間外に学習を行うことがある。					